

婦人と子ども

第四卷第十一號

## 講 告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。本誌は一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育、幼兒保育の状態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡て左の規則によるることとす。

一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十

行廿二字詰、體は楷書。

一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。

一、原稿は、一切返附せざること。

一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべきこと。

一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。

一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから、其割合で女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會へ向け何ヶ月分か纏めてお納めの上、申込まれると、雑誌は當會から無代價で御送附します。會員にならないで、たゞ雑誌だけ買って御読みになりたい方は、日本橋區本石町三ノ廿三金昌堂へ御注文下さい、一冊拾錢六冊前金五拾七錢十二冊前金一圓拾錢他に郵稅が一冊一錢づゝの割合です。

明治三十七年十一月二日印刷  
同 年十一月五日發行

不 許  
復 製

發行兼編輯者 東京市神田區西小川町二丁目一番地  
有 久  
東京市神田區錦町一丁目十九番地  
印 刷 者 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
主計所  
印 刷 所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
田 活 版 所 女子高等師範學校附屬幼稚園内  
会  
發 行 所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地  
昌 堂

# 婦人と子ども第四卷第十一號目次

## 卷首

ニュー・カツスルの幼稚園

子ども

兵卒フリーブ

いそつぶの咄

賀陽宮殿下の御作文

考へもの、答

附屬小學校運動會の記

婦人と子ども

獨逸の教育實況

子供の家庭教育

割烹

會報

家庭に於ける所感 ..... 長野 飯塚忠次郎 四

武田錦子君の女子教育談 ..... 圖

傷病兵慰藉の唱歌 ..... 哭

旅順口の鼠船 ..... ハナシ生・尾

あ一愁 ..... 林天然・哭

フレーベル會俳句端書集 ..... 醍野奇零・四九

信州の秋 ..... 小林雨峯・五一

幼稚園案内 ..... 東基吉・五七

女子高等師範學校附屬幼稚園分室報告 ..... 六二

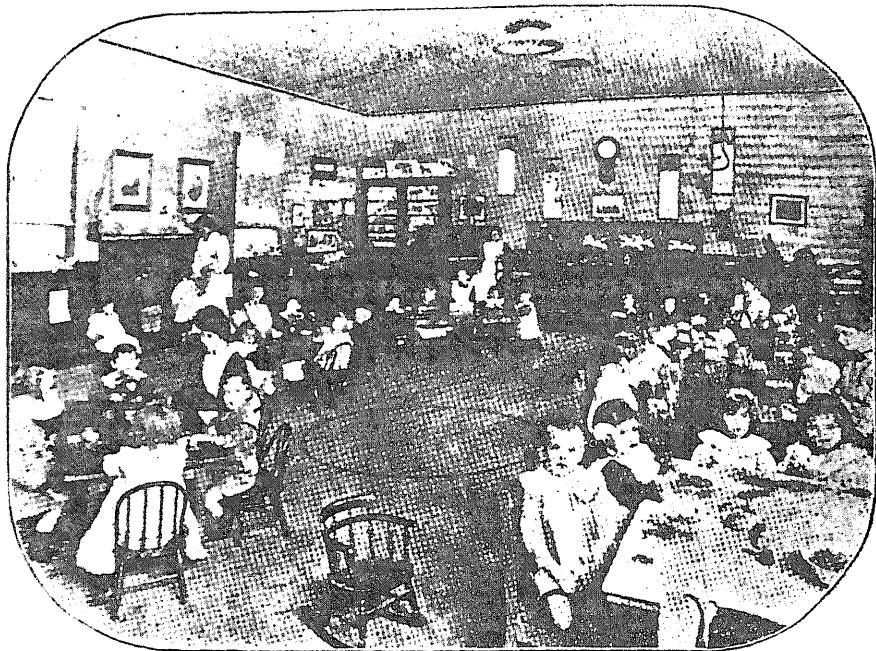
日本の幼稚園 ..... 六六

漢州ニュー・カツスルの幼稚園 ..... 六七

附屬高等女學校運動會 ..... 六八

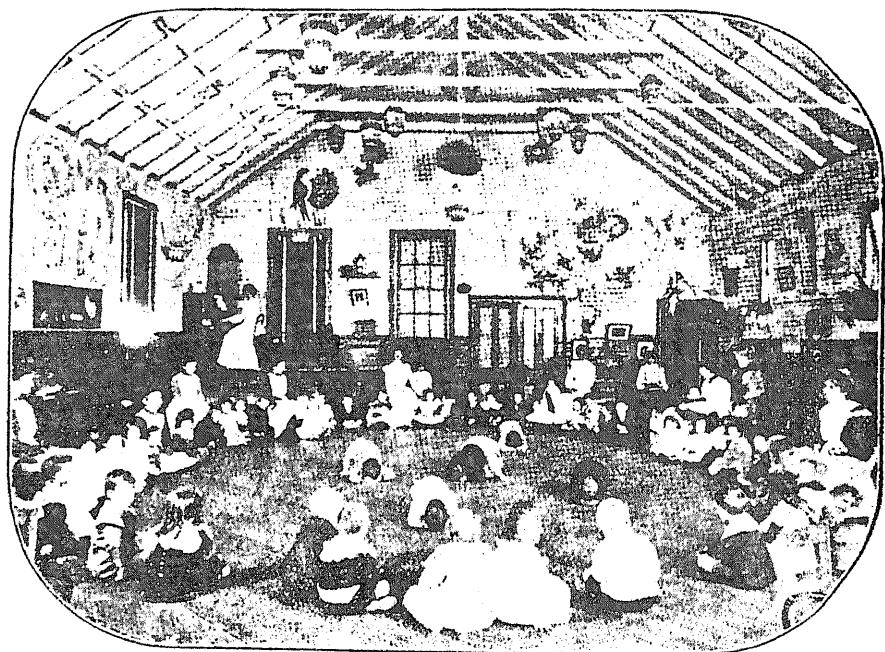
新刊紹介 ..... 古

古



(手 技) WORK.

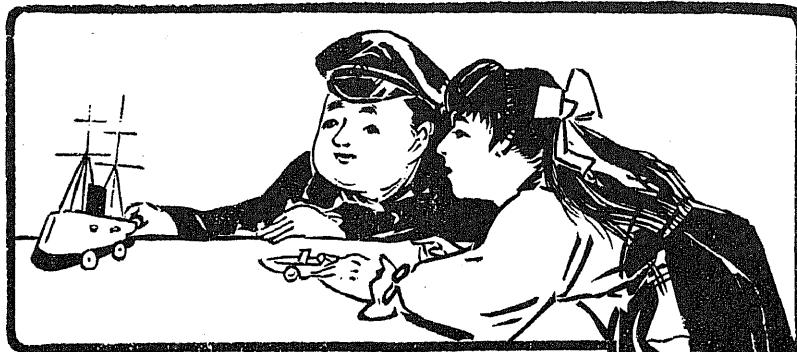
MOTHER KINDERGARTEN.



(遊 戲)

PLAY.

DARBY STREET KINDERGARTEN.



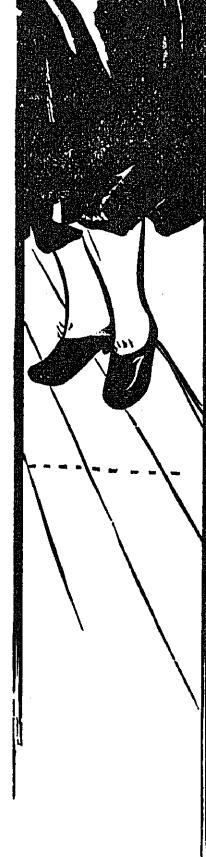
# もど子と人婦

## 號一十第卷四第

兵卒フリツ

やまとの翁

今から大方四十年程前に、獨逸と佛蘭西とで、ひどい大戦をしたことがあります。其戦について面白いお話がありますから、今度は一つ其お話をして見まし



よう。

獨逸の軍隊に一人の軍曹がありまして、其子に兵卒フリッヅといふのがありました。家はブランデンブルヒといふ所です。小さい時から、いつも兵卒のお遊びかりします所から、誰もかも、兵卒フリッヅ、兵卒フリッヅ、といふ様になつて、自分でも、大變そういはれるのを喜んで居ました。

フリッヅのお父さんは、佛蘭西との戦争の間、ラインといふ河の側の聯隊に付いて居ました。或日のこと、お父さんが、そこから家へよこした手紙に、戦争中、別に欲しいものとてはないが、時々野菜がなくなつて困るといふことを書いて、其端に、

あゝ、どうかして家に在るいゝ馬鈴薯の一袋もあつたもんなら、



皆が、どんなに喜んで食べるかも知れないよ。

といつてかいて居ました。

夫を聞いて、兵卒フリッヅは朝晩、お父さんのことばかり、思つたり、夢に見たりしました。夫から、或日のこと、お母さんに言はないで、そつと家の納屋から、よりぬきの上等の馬鈴薯を袋に一括詰め込んで、とうく夫を持ってお父さんを尋ねに出かけました。

さて、其日の晝頃になって、或町までやって来て、其處の宿屋に倚つて休みました。すると、そこには澤山なお客が居ました。そして其中に、一人の跛の年老つた兵隊が居つて、のそりくとフリッヅの方へ歩いて来て、そして不思儀そうに、フリッヅの頭の尖から足

の尖まで見上げたり、見下したりして、  
「お前、何しに來たのだ」と尋ねました。

すると フリッジは、

「僕は之から、ラインへ行く所なんです。僕のお父さんは、今度陸級して軍曹になつたのです。然しお父さんは、そんな事はどうでもよいが、馬鈴薯のないのが一番困るといつてきました。だから、僕は少しばかり持つて行つてやらうと思つて、一番い」のをよりぬいてもつて來ました。この袋の中に入つてゐるのがそうです

といひますと、兵隊は

「や、こりや感心だ、夫が眞實なら、どれくも一度いって見てくれ、どういふんだって」

フリッヅは又始から咄しました。そうして皆のお客さんも耳を立てゝ聞いて居ます。其お話がしもうといふと、今度は、彼の年老つた兵隊の目からぼろく涙がこぼれて居ます。勿論、他の人たちも殘らず感心していました。

そこでその兵隊は、

「あゝ、お前は眞實に兵隊の子だ、私は、もうお前を見ると、何だか嬉しくって胸がどきくしてしようがない位だよ」といつて、しきりに、フリッヅの頭を撫でゝ居ますと他のお客様たちも皆側へやつて来て、しきりと可愛がつて居ます。こん

な風で、今日はもう皆で以つて、フリッジを前へやらうとはしないで、とうく其晩は其宿屋に止らなければならぬ様になつて、

フリッジは丸で、殿様の子か何かの様に大事にせられました。

夫から夕方になつて、又新らしいお客様がくると、フリッジは又其のお話を聞く、とうく夜になつて、奇麗なお座敷で美しい柔なお布團を取つて貰つて、くたびれたまゝ、ぐうく寝て仕舞ました。

フリッジが寝て居る間に、彼の年老つた兵隊が、皆のお客に咄してこんなに豪い子供を一文なしに此先を旅させるのは吾々の耻だないかといつて相談しました處が、そうだくといつて、皆吾前にと財布からお金を出しました。夫で、宿屋の主人が、翌朝まで、其お金預つて居つて、朝になつてから、フリッジを起し

て甘い朝ご飯を食べさせて。そして、ダのお金を、上衣の縁に縫ひ込んでくれました。

そこで、フリッヅは皆にお禮をいって、そこを出まして、トットツくと歩いて行きましたが、晩方になつて、又他の宿屋について、そこでも又前のお話ををして皆から、大層大事にせられました。こういふ風で、幾日もく旅行をして、とうくお仕舞ひに、遠くから、獨逸軍の第一歩哨を見付けましたから、丸で飛ぶ様な勢いで駆けて行つて、いきなり問ひました。

「私のお父さんは何處に居るか知つて居ますか」

すると哨兵は

「何だ馬鹿奴が、お前、已がお前のお父さんの名前を知つてる

と思ふのか？そして、どこの聯隊に居るのか

「あ、そーだつた、ブランデルブルヒ聯隊です。名前はマルチン・ボラマンといつて軍曹です」

「そーか、夫が眞實なら、よし、通つて行つて尋ねて見るがよい」

フリッヅは、そこを走り抜けて行つて、こんどは第二第三と歩哨線を通つて、とうく聯隊副官の處へ行きました。すると副官はこまかにフリッヅを吟味して見ましたが、フリッヅの話を聞けば聞くほどだんく親切になつて来て、

「よし、私について來い、索したらすぐ知れるに違ない」

それから、副官について行くと、今度は、大きな立派なテントの處へ來ました。其テントの上には廣い聯隊旗が勇ましく風に翻つ

て居ます。フリッジはもう嬉しくって嬉しくって、にこく顔で副官の側について指圖の儘に、恐ろしげもなく、テントの中に這入りました。見ると、そこには、大分年の老つた、立派な軍服を衣て、胸には幾つもの勳章がピカ々して居る一人の將校がテーブルに向つて、大きな腕かけ椅子に腰かけて、しきりと地圖を見て居る様です。そして副官の這入つて來たのを見て、たゞ一寸顔を擧げて、副官が、五六歩前に立ち留つて、丁寧にした擧手の禮に向つて僅かにうなづいて居るのであります。

「こりや屹度司令官に違ない」

フリッジは入口に立つて考へて居ます。

フリッジの考へ通り、此將校は軍司令官でした。副官は恭々しく

進んで行つて、低い聲で、司令官に話しました。すると司令官は急に眼を地圖から離して、副官の咄に耳を傾けながら、時々、忙がはしくフリッヅの方を見て居ましたが、やがて、お話をすむと副官に何か命令を與へて其場を去らせて、さて、フリッヅに向つて柔しい目配せをしましたので、フリッヅは、すぐ進んで行つて丁度兵隊の姿勢で其前に眞直に立ちました。

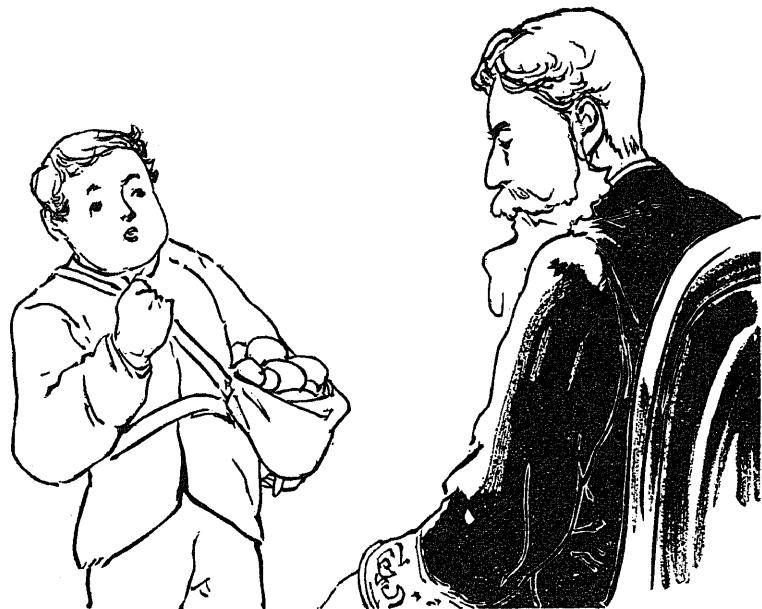
司「お前、名は何といふ？」

フ「フリッヅ、ボラマンです。又兵卒フリッヅともいひます。

司令官はニッコとして

司「どこから來た？」

フ「ブランデンブルヒから」



司「一體、何をしに來たのかね

十二

「お父つあん所へ馬鈴薯まろにいじゆをもつて」  
「ハテ、これは眞實はんじゆかな」と司令官  
は自分で獨言ひとりごとをいって

司「じゃあ、お前、其馬鈴薯そのまろにいじゆとい  
ふのを、そこに袋ふくろの中に入れ  
て持つてゐるのだね」

「ハイ、納屋なやの中で一番いちばんいゝの  
を持つて來ました」

そう云つて、フリッヅは、袋ふくろを肩かた  
から下さして、中を開けて見て

「マ一 一寸御覽下さい、この通りみんなまるくして、小石の  
様に滑つこいんです」

司「あよよしくなる程見事だ、どれもこれも甘そうなの許りだ  
そこでと、お前は暫らくの間、次の間へ行つてゐてくれぬか、  
その中私が呼ぶから、そして少しの間、その馬鈴薯をこゝへ置  
いておいて欲しいものだ」

フリッジはいはれるまゝに、次の間へ行つて、その大きな腕かけ椅子に腰かけましたが、まもなく、こくりくと座眠り始めました。一日中歩き通した足勞もありますし、わけては、こゝへ着いて安心した故でもありますよ。で、司令官が、一時間もたつてから、這入つて來た時は、フリッジはさも心地よさうに寝

入て居りましたから、其儘寝かせて置いて、司令官は又そーと  
出て行かれました。

さて、フリッヅが、何も知らないで寝こんでしまって居る中に司令官は、フリッヅの爲めに、いろいろ骨を折って、とうくお父っさんのマルチン、ボラマンを探し出して、それから、今晚、大將の陣で夕飯を御馳走するから出てくる様にと命令を傳へまして、同時に上方の將校も残らずお招きしました。(つづく)

いそそぶの話

腹ふくらした狐

狐が大層なかつね腹を空かせて、山の中を歩いて居りましたが、大きな檉のウロの中に、誰が置いたものか、澤山な御馳走のあるのを見付けて、その中へ這入り込んで、腹一杯食べました、さて、出ようとふ時になると、お腹があんまり一杯になりすぎて、どうしても出られませんから、しきりに苦しがつて鳴いて居りますと、そこへ連れの狐がやつて来て、よく其譯を聞いて、申しますには「夫れは仕方がない、あんまり食べ過ぎたのだから、お腹が元の通り這入った時の様になるまで、そこで待つて居れば出られる」と言ひましたあんまり、たべすぎると、こんな目に遭ひます

獵夫と木樵り

一人の獵夫がありました、あんまり強くはない人でした가、ある時、山の中で、獅子の足跡を探しながらやつて行きましたが、途て、木を伐つてゐる人に遭ひましたから、ひよつと、獅子の足跡を見なかつたか、夫とも獅子の接家を知つて居ないかと尋ねました。木樵りは、「なーに、夫よか、獅子ならどこに居るか、すぐお前に見せて上げ様」と答へました。すると、獵夫は忽ち眞青になつてガタ／＼戦慄ひだして、「イーエ、ありがたう、私の聞いたのは、獅子の足跡です。獅子を探してるのではありません」

眞個に強い人は、言葉と同じ様に行ひが立派なもので、

野の中で、獵犬が一匹の兎を見付けて追っかけます

したが、とても叶はなかつたので、途中で止し

ました、すると小牛どもが、側で見て居て、「大きな姿して小さい兎に叶はないのは可笑しいな」

といつて笑ひました、獵犬が言ふには、「そりやそうさ、僕は晝食がほしさに追かけたのだのに、彼は、生命が欲しさに逃げたのだもの」

### 金の卵を生む鶏

或人が鶏を飼つて居ました所が、毎日金の卵を生みます、そこで其人の思ふにはこんなに毎日金の卵を生むので見ると腹の中にはよっぽど澤山な金の塊が這入つて居るに違ない、といつて一度に夫を取らうといふ考へから、とうとう夫を殺して腹の中を見た所が、他の鶏と、少しも變つた事がなかつたので、夫からといふものは、一つも金の卵を取ることが出来なくなりましたとす。

### 獅子と狐と驢馬

或時、此三四匹がふ仲間になつて、餌食をとりに出来ました。隨分澤山な獲物か取れたから、三四匹で揃つて歸つて來まして、さて獅子が、此を三四匹に分けようといつて、其分け方を驢馬に命じましたので、驢馬は、一々より分け、同じ様に三に分けて、恭しく獅子に、どれでもお好きなのを、さきにふとり下さりと申し上げました。すると獅子は、非常に怒つて、「この馬鹿め」といつて、たゞ一口に驢馬を食つてしまひました。其次に、狐に、も一度之をお前と己とに分け直せといひました。狐は畏まつて三、に分けたのを又一つにして其中から、極小片ひとすこ一片丈けを自分の分に残して置いて、其後を獅子の分としてさし出しました

獅子は夫を見て、「お前は仲々利口だ、其分け方は

誰から教はつた、餘程甘いじやないか」といひますと、狐は「ハイ、たつた今しがた、驢馬の死んだのを見て夫から學びました」と答へました。

人の不幸を見て、自分で用心する人は幸福です

\* \* \*

### 賀陽宮由紀子殿下の御作文

殿下は本年満九歳にならせられて、只今は京都の竹間小學校の尋常三年の課程を御ふさめにて、おいでやすがまことに御天性が御聰明で他の生徒の摸範と仰がれて居られる相です。此頃同校の校長さんの、戰爭の御啗をお聞きになりになって、受持の先生におだしになつたので宮の御心の厚いには、だれもかれも感心したと云ふことです。

### とし子の話

このごろ、日本はロシヤといくさをして居ります、大阪の女學校の生徒たちがこの夏休みに、方々の病いんへ、いつて兵士の病氣を、みまふてやられました、私はこのことをきいて、かんしながらして居りました。こゝに、またかんしなな、人があります。名はとし子、年は十九で國は、えちごです、そしてよい内のお方ですが三百五十里もある、遠い、ひろ島へ兵士のかんごに、ゆかれました、とし子は、ゑひぢやの、はかまを、はいて大ぜいの、かんごふ

の中へ、はいって、よくはたらねてゐる

と、先生にきつました、私もなぐさめ  
に行きたいけれど、小さいからいくこ  
とができません

### 運動會の記

先月の十四日は附屬小學校の運動會であります  
て尋常一年生から高等科の生徒まで残らずそろ  
つて十二社へ出かけました、其模様は、次の作  
文でお分りになりますよ。

### 運動會

附屬小學校第三部 川 島 政 辰

十月十四日は、此學校の運動會であります、午  
前八時半に學校を出で、御茶の水橋を渡つて、飯  
田町に九時半につきました、それから汽車に乗り

- 一、尻を踏むたび毎に頭を上げるもの  
答 米を揚ぐ(だいからと云ふ物)
- 二、一人りで持てばよいが二人りでは重くなり持ちにくく三入で  
尙持ちにくい物  
答 梱(人の影)

解答者 全地

鈴木 脣逸郎

- 三、或る者の先きに立たんとして先き立つ事が出来がたく其れで  
其者に連れ様として連れる事が出来ません  
答 梱(人の影)

解答者 全地

原田すゝ子

ましだが、乗つたと思つたら、すぐステーション  
を出ました、そうすると、大きな山や川などがあ  
る。それを見てゐる間に、汽車はどんづへはしつ  
て行きます、右をみれば田や畑があつて、稻のは  
がきいろくなつてゐる、かがしや、なるこがかけ

であつた、その向ふに、兵士がそろつてはしつて  
ゐるし、左を見れば電車が通る、そのわきの家には、多くの牛がなかよく遊んでゐた、またとんね  
るをたくさんくいりましたが、四ツ谷の少しだき  
のとんねるは、七つこへたうち一番大きくなりま  
した、いよいよ新宿のステーションについて、あ  
るいて十二社まで行く道に、さつきの兵士がばん  
べいをしてゐました、十二社とかいてある石がた  
つてゐました、そこをはいつてどんぐり行くと畑  
があつて、そこににんじんと、だいこんと、ごぼー  
と、じもと、とーからしと、菜などがきれいにな  
らんでもありました、そこをこすと、つぱり栗がおち  
てゐました、そこを出ると、ちょーと元町の水ど  
林があつてそこにすりばちをさかさにしたよーな

山があつたから、こゝで遊ぶのかとふもつたら、まだ行きました、大きな川があつて、そこにつゝいて水車が米をついてゐました、そこをすると、じや口が二つあつてそれから瀧になつてで、る所をすぎて、運動會の場所にいつてさせんをしました、赤白とわかれ、私は白の方で、そう大將は戸井田さんで、じんをきめて戰ひました、私は草の中へ、かくれて赤の人をさがして、白は赤の玉をどつさりとつてゐるのを、今立先生がとうめがねでみていらしつたと思つたら、よびこをふふきになりましたから集まりました、玉をかんじよーして見たら白が多くありました、其時、白がかちどきをあげたことをはしばらくやみませんでした、又やりましたが、こんどは白が負けました、それからべんとーをたべて、尋常一二年がやはり

この次にはおもしろい繪ときの問題をだします。言ひあてた人には、來年のお正月に御褒美をあげます。

させんをしました、三部の勝五郎さんは白で、赤の玉を五つもとりました故、白がかちました、其次は一部の人で、赤十字をこしらへて、玉をとられた人は赤十字につれていかれました、たびくしましたが、みんな白が、ちました、それから、つな引をしても、白がかちました、それかられしまいかねで集つて、新宿まできて汽車に乗つて四ツ谷まできたら、雨がちよばく降つてきました、汽車は早いからはんからだして風にふかしてたのしんでゐるうち、飯田町につきました先生たちにわかつて、坂本さんと、本田さんと、千代田さんと、鹿島さんとで、忙にごとをしながら歸つてきました、此日は誠にゆかいでした。

# 婦人と子ども

## 獨逸の教育實況



高 橋 章 臣

私は只今御紹介下さつた、高橋といふもので御座います。私が此の席に於てお話を致す事の機會を得ましたのは、實に大なる光榮と存じます、先に此の集會のある事に就て何かお話をやうにとの御内命が中村氏から御座いましたから。其の時實は色々と考へて見ましたけれども、どうも有益なるお話をする事が六ヶ敷思ひましたから、お断りを申上げやうと、思ひましたが、然し能く考へ直して見ると、先に私の恩師なる高嶺先生の御關係になつて居る會でもありますし、又折角の仰せをお断りするのも、如何か

と思ひまして、遂にお受けを致した次第であります、然らば初、如何なる事をお話して宜しいか、實に之れにも苦しみました、皆さんも御承知の通り、私は丁度今年の六月に外國から歸つて参りました、然しあちらに居りましても、主として理科並に植物學の研究に從事致して居りましたから、如何せん幼稚園の事に關しては、何にも知らないと云ふて宜しいのであります、依て非常に題目に苦しみました。か、る次第でありますから今、お話を致す事も、元より面白味のない事と存じますが、暫時お聞を願ひます。今獨逸に小供のうまれたる父母ありと假定してお話をしませう。其の育て振りに於てはどうであるかといふと、殆ど母親の乳は用ひません。尤も田舎に参りますと、稀にはそういう家庭もある様ではあります。が先づ多くは牛乳であります、而て其の牛乳は必ず暖めて用ゆるのであります、又其の子守の仕方も我が國のものとは大分違つて居りまして、多くは乳母が車に載せて引いて歩きます、然し時としては母が後からをして参る事も御座います、マア何れにもせよ、我が國の如く負ひ又は抱くやうな事はあります。又其の場所も家の近處に空地ある處は、さて置き、多くは公園に連れて参ります、其れでありますから公園には何時もかかる車で一つぱい満されて居ります、殊に夏は最も多くあります、此に一つ感心する事は西洋の小供は餘り泣きません。ヨシ泣いても、ごく低い聲で泣きます、ばかりでなく其の時間も大層短くあります、西洋では小供が泣きましても決して親切には致しませんで棄て、置きます、マア是等が習慣となつたものでありますか。それから夜、寝る時間も大層早くありまして大抵日が暮れる

と一處に寐ます、其の時も我が國のやうに、何時迄も側について居る事はありません、而も其の部屋は眞つ暗であつて其處へ一人で寐るのであります、此の邊は實に我が國の小供と大層違ふ處であります、

此の小供がだん／＼歩く時分になりますと、大抵外で遊びます、尤も雨天又は寒い時分は別でありますか……それから、あちらには必ず小供の部屋といふものがあります、其の内には小供に適當した、玩具が備へ付けられてあります、或は竹馬の如く運動に適するものもあります、又小さくして工夫を凝らしたものもあります、又は動物のやうなものもあります、かくの如く玩具の種類は極めて多くあります  
が、然しそれを出して遊んだ後には必ず整頓させます、決して我が國のやうに、すらうではありますせん、それから外で遊びます時には大抵フートボールを致して居ります、尤も田舎の小供になりますと近處にある原で遊びますが、マア大抵は公園に行くやうであります、或は風をあげて居る小供もありますし、又、かけっこをして居る小供もあります、此の間に於ては一向男女の差がありません、此の間に幼稚園に行くやうになります。全体獨逸の學齡期は満六才であります、此の時期になると父母即ち保護者はよく考へねばならぬ事になつて参ります、勿論これは我が國でも同じ事ではありますか我が國よりも一層であります、其れはなぜでせうか、順に話を致しませう

凡そ獨逸の義務教育は八ヶ年であります即ち我が國の高等小學教育を加へたものと同じであります、尤

も八ヶ年と云ひました。之れには多少の差があります。皆さんも御承知の通り獨逸は聯邦國であります。確か其の數は二十六だと覺えて居りましたが或は違ふかもしれません。其の國々にば各々主權者がありましてすべて其の國を統御して居ります。而してその聯邦國を代表する皇帝即ちプロシアの王が獨逸の皇帝となるのであります。之れは選舉ではなくて世襲であります。皇帝は之れ丈の權利を有することが出来ます。それは、

- 一、外國に對して戰宣を布告し又は和議をむすぶ事、
- 二、外國に對して同盟を結び又はこれを解く事、

### 三、外國公使を新任し又は撤くる事、

のみであります。其の他の事は聯邦國の王が致します。其の聯邦國には文部省或は之れに相當する役所がありまして、國中の學生を統割して居ります。従つて八ヶ年の内にも多少差のある筈であります。此の八ヶ年は所謂義務教育であつて、苟も獨逸國民は免れる事は出来ません。話が一寸よこ道にはりますが兎に角八ヶ年は義務教育としてしなければならないのでありますから、従つて普通教育の度が遙かに高くなります。例へば下女の如き智識の低いものでも、普通新聞の社説位は讀めますし、又卑猥でない小説ならば能く其の意味を解する事が出来ます。又算術の如きものに至つても、普通の事位なら出来ます。のみならず、獨逸國の成立とか又は法律等一通りは心得て居るといふ次第でありますから、之

れには私も非常に驚きました。讀書は上南通じて致します、否寧ろ一種の樂しみとして致すのであります、然し其の讀む本を一々買ふわけにも行きません、そこで獨逸には市に圖書館が建てられて居りますて、隨意に見る事が出来るやうになつて居ります。それ故に小學校を終つた後、更に特別なる高等の學校にはいらずとも自修する力は充分に出来て居ります、然しもし之れが四年位でありますならば必ずそこまでには出來て居らないだらうと思ひます、是れ偏に獨逸教育の盛なる所以でありますうと思ひます。

小學校即ち國民學校は八ヶ年の義務教育にて終るもの又は八ヶ年の義務教育を終れる後に更に一年又は二年或は三年の補習科をして終るものとが入學する學校であります、然しモット學問をしたい即ち大學迄もやらせたいと思ふものは満六才に達した時に既に定めなければなりません、といふは國民學校に入學した小供は中學校には、これらないと云ふ事があるからであります、凡そ中學校には種々ありまして大學に連絡あるものと、然らざるものとがあります、故に先づ満六才に達すれば(一)父母の資産(二)小供の体力、(三)小供の賢愚等に就てよく考へ、いよ／＼ギムナシユームに入るゝとすれば國民學校は入れずとも、宜しい、又中學程度の學校にも入れなくともよろしいのである、然しギムナシユームは満六才の何にも知らぬ小供を入れる事は出来ません、矢張、これには附屬せる小學校といふものが二年あるのである、今小學校の表をるためにかけますと(表略す、)

此の三年の間には読み書きを自由にする事勿論よむ事に於ては限りはないけれども先づ發音の出来る位迄、又書く方は獨逸文字とラテン文字とを書く事が出来るまで又算術は一より千まで加減乘除が出来なければなりません、是等が出来ると始めてギムナジユームの幼年級に入る事が出来ます、ギムナジユームの學力の程度は此の表にある通りであります、

此の表の他に体操は一週に三時間、唱歌も少しはあります、が是等は最も輕視されて居ります、此の表の中に於て最も力あるものはラテン語であります、之れは九年間通じてあります、殊に有る聯邦國になりますと一週に八時間乃至九時間ある處さへあります、次に希臘語次に佛語、で希臘語は六ヶ年佛語は七ヶ年間あります、でありますから所謂語學校といふてもよろしいのであります、是等に就ては種々議論もあるやうであります先づ今日の處では之れを可と認むるのは極めて少なくあります、私が大學に居ります時、非常に親しんで居た獨逸の學生で植物學を研究して居つた者があります、或時それがいふのには『實にギムナジユームは困つたものである、骨て私が茲に於て勉強したもの』はラテン語であります、今此の大學で勉強する時に當り如何程効力あるかと云へば只僅である否希臘語に至つては少しも効力がない、而して他の物理、化學、動物、植物等所謂有形の學問に至つては殆ど僅かしか教へられて居らない將來大學にはいつてから是れ等の學問を研究する人はさて置き法律とか哲學とか所謂他の學問を學ぶ人はとても是等のものを學んで居る暇がない從つて智識の缺けた人とならねばなりませ

ん、此の事は今日に於ても教育上の集會とか又は雑誌等に於て頻りと攻撃して居りますが中々改正され  
 そうにもありません、如何となれば此のギムナジユームの校長は老人であつて而も極めて勢力ある人で  
 ある、常に此の人々が云つて居るには、此の文明を起したものは何か又此の文明が何處から起つて來て  
 居るかと云ふと、どうしても希臘語やラテン語の行はれて居る國から起つて居るに違ひない、であるか  
 ら之等の文學を知らなければ、其の文明のありかはとても知る事は出來ない故に最高の教育をうける人  
 は是非ともその本にさかのぼりて研究しなければならない。又人物を作るにも逆ばらなければならぬ  
 又或人の云ふのには獨逸語でしらべたらよさそうなものではないか、之れに答へて云ふのには同じ語を  
 あらはすにもせよ語が違つて居つてはそれを充分に解する事が出來ない、なぜなれば語以上にその意味  
 を感ずる事が出來ないからである故に今日歐羅巴の文明を知り又は立派な人を作ろうと思ふには此のラ  
 テン語に依て始めて得らるゝものであると、こう云つて居ります

このラテン語の教授法といふのは極めて慘酷であつて皆暗記であります殊に甚だしいのは手を以て打  
 つ事さへあります、然るに生徒はこんな苦しみをしても習ふ處を見ると實に驚く程であります。故に勢  
 力ある老人の死んだ後でなくしては。これを改正するといふこと六ヶ敷いことです。生徒は必死に勉強し  
 て非常に恐れる、其困難を忍んで習ひます、  
 而して此ギムナジユームを終れば、無試験にて大學へ入學する、其大學は獨逸にて二十あり、其他に大

學と同資格をもてるもの一校あり、其學生の數は三万六千人、獨逸人口は五千六百万あり。此ギムナジユームを卒業して入學する大學の各れに入るかといふこと問題なり、此二十一の大學は互に連絡があつて他に轉校するも自由なり。ギムナジユームも連絡している、大學へ入れようかといふことになりて、日本の大學生と違ふから困難です、彼の大學の内に同じ様なことが多くあるわけである、又特別のところある、例甲校は醫學進みて、乙校は法律がいいとかいふ、特徵ある敵に、希望によりて入学する、大學に入學すれば親は少しも心配はいらず、又大學にても少しも干涉せず、放任主義なり、之を事實に依つて調べると、第一寄宿舎はなく、勉強の仕方は其一を話しすれば大學の誰教授のを聞く、それは例へば民法を聞く講座が二つも三つもある、それで其生徒が何れの講座の講義を聞くことが出来るから二週間又は三週間は誰れの教授のも聞くことを許してある、其時は月謝は不要なり、互に批評する然してきめるには教授は非常に勉強する故に骨が折れる、教師をきめたらば、そこで學校から小さな帳面が渡る、それに教授の名と教科とを書き入れて、事務へ持てゆく、そうすると事務員は之れを其教授のとこへもつてゆくと、教授は之れに目を書き入れて、捺印してくれる。大學は卒業の時季定めてない然し中にはドクトルになりたい人なれば、ドクトルの試験を受くこれをうくるまでには少くも三年講義を聞かねばならぬ、と云ふことがあるからである、又學生の内には組合といふものがあつて、之れは他の大學にはないことである、二十人若くは三十人位組合となり、之れには殆んど生命を賭けても約束は

異はないといふ、最も堅い組合である。此組合は遊ぶことの最も都合のよい組合である。こゝでは又劍術を習ふ。而して決闘をなす之れが此組合の大なる仕事であるから、講義を聞く人を拒む、然し二年三年になるとダン／＼勉強するやうになる、それから本を見だす様になつて、まあ大抵五年目にドクトルの試験を受くるのである、試験は時もきまらず、其試験には筆記と口答論文提出等あつて講堂で授與式がある、それが又面白い、此式がある一ヶ月ばかり前から、學生又は學校外にその事を廣告する、それは（誰々が演説をするから、之を云ひ負かせ）一寸聞いたところでは大へん恐ろしい様であるが、中々そうでない、それは卒業論文の中の大事な一説を暗記する、それを他の人（友人のうちでドクトルの稱號ある人又は將さに持たんとする人にたのんで私は今度かようの演説をするから、其中でこれ／＼の處を質問してくれ、すれば私はこう答へるからといふ様に前から約束をして置くのであるから、何でもないのである之れがすむと誓をする。

次に大學總長來て卒業證書紙筒を授與す、貰つて歸れば友人知人に通知する等、それは／＼非常な喜びで二三日は徹夜してゑん會する、その喜んでとれたドクトルは如何なる價値ありや、否や、何も資格なし、只人權を得るばかりである、人間として完全に近きものとなつたのである、世人が學士さんと云つて名前を呼ばなくなる、然しどクトルが書店の番頭などをもしてゐる、けれど學士のねうちは下らない。かよう世の中の職業の爲めに何の資格もないのである、此次ぎにもう一つ受けなければならぬいそれ

は國の試験である、國家の試験員が試験をする、例へば教員にならんとするものは其試験をうけなければならぬ、大抵其準備に豫め二年位かかる、これに卒業して初めて資格ある人となるけれども、職業をもつことの出来ない人は、遊んでゐることになる、其時は又大學校に入るのである、そうして他のドクトルをとる故に、中には二つも三つもドクトルを有てる人あり、又研究をしてゐるものもある、研究所にありて何か眞理を極めん爲に學ぶ人あり、元來大發明大事業家は暇人で而かも學力ある人から出来る、餘裕ありて初めて人物が出るのであります。故に大學の教授も中々迂闊には居られない、此等の生徒に負けぬ様に、一生懸命になつてゐる、獨逸の教授は教ふるよりも己れの研究を第一とす。

ギムナジユームの中に實科ギムナジユームといふあり、これは大學との連絡を有せず、年限同一高等小學校より九ヶ年通してすること、これはギリシヤ語ラテン語のないところである。其代りに英語がはいつてゐる、又理科を澤山するこれを卒業したものは實業に適する様になつて居る、此上に又一つ學校あり、吾邦語にて工科大學あちらでは高等工業學校、それが近來多くなつて其方が進歩した、之れが今日獨逸の工業の盛なる源をしたのです、故に若し此實科ギムナジユームに入らんとするものは、始めより此れに連絡ある學校に入學しなければならない、以上男子教育の一斑です、

女子教育について申しませう

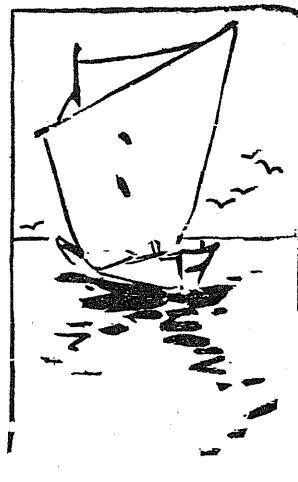
女子のためには高等女學校あり、之れは我國のものと、殆んど同じ、只年限に差あるのみ、この表の通

り一年より九年、満六年より九ヶ年、高等小學校に一年増したものなり、此女學校に於ては佛語に最も重きを置く交際場裡に於て佛語を話せぬ人は令夫人の資格ないと迄云ひ居れば佛語を知らざるは恥として研究しますから盛です。

私曾て女學校の卒業式を參觀しましたが其時芝居をしましたそれは皆佛語であるのです又卒業生ばかりでなく下級のものも余興として佛國會話佛文をよみなどす、それ故プロイセンでは其出來の如何によつて其學校の價値が定まる、之れに依て高等女學校の大方針をうかゞふことが出来ます。

其他學校は種々ありますて、裁縫實科料理學校等其他を申せば澤山ありますが、先づ獨逸の教育の一般は、これ位であります、之れで御免を蒙りませう。

(これは先月本會にて演説せられたの、筆記であります。時日がなかつたために演説者の校閲を怠はなかつたのですから文の責は編者にあります)



### 子供の家庭教育

三年以前より島津公爵家の家庭教師として努力せる英國人ハフード嬢が某新聞記者に語りたるもの左の如し

○自然の記憶 子供の家庭教育はナカノー困難なものですが、自然の記憶と注意と云ふ事が尤も肝心です、子供をして知らず知らず智識を啓發させ

るには何が關係が深いかと云ふと玩具です、持たせる玩具によつて色々の注意を引き起させる事が出来ます、西洋では水彩畫を子供の遊戯として遣

らせます、日本でも大分小學校の生徒などが稽古するやうですが、之れは趣味のある玩具だと思ひます、例へば爰に牧場の畫があつて數頭の牛が居る、夫れを繪具で子供は思ふさま彩る、紫でも彩るだろうし、黒でも赤でも黄でも必ず手當り放題に着色する、此時側に侍て居る母親とか家庭教師が此牛は赤牛だとか黒牛だと云つて教えれば自然色の配合を覺へさせる事が出来る、夫れに子供は同じ事を幾度も繰返す事は好まないから、山水とか家屋とかサマの繪を彩色させて、愉快の間に注意力を養成させる機會が作られます。

○面白き遊び 何事も遊び半分にさせるので特別に勉強させると云のではないが、決して無駄には遊ばせぬ、石盤へ真直に棒を引かせるとか魚の形や鳥の形など書かせても宜し、夫れ等の遊びに倦

きたら音楽も面白いのです、音楽ほど子供を活潑に温順しくさせる微妙の力を持つて居るものはありません、同じ子供を遊ばせるにも、愉快に遊ばせるのと不愉快に遊ばせるのとは体育上の健不健に非常の影響を及ぼすものです。

○玩具の活用 語學思想を養成させるが爲めに、綴字札と云ふ玩具がある、其札にはA B C が一字宛記してあつて二十六字一組としてある、其一組を各自の子供に渡し置き、最初に母親なり家庭教師なりが其の札で一つの綴字を置く、例へば D と云ふ綴りを其處へ出したら、側に居る子供達は其綴字の内の D とか O とか G とか其内の一宇を取つて頭字とし、一番綴りの長い字を搜させる、ケレとも小さい子供が爾う澤山の字を知つて居やうもなし、ですから其場合には字引なり書籍なりを見

て綴らせます、爾うして一番長い綴字を見出したのを優等とする、斯うしてサマーベーの字を繰返へさせる間には自然言葉も覚えるし、字の綴りも覚える、玩具には有益なものが澤山ありますが、凡て子供には一度に澤山玩具を與へるのは宜しくないと思ひます、第一粗末にするし、又一々玩具の趣味を解する事が出来ないで仕舞ひますから、從つて記憶や注意を與へる事が出来ずに玩具が何にも活用をしません。

○數學的思想 數學的思想の大切なる事は云々迄も御座いませんが之れは子供の時から注意をさせると段々規律正しい美風を養成させることが出来ます、子供の玩具にも其考案から成立つたものが澤山あります、が最初に數と云ふ事を覚えさせる爲め、數字的を空氣銃で射つと云ふ遊戯があります、

之れはさまでの數字を記した板があつて、其處へ釣が付いて居る、其釣へ金星でも銀星でも目的を掛け、夫れを狙つて空氣銃で撃つのです、的中は非常に興味もある、其撃當ると同時に的の下に記してある數字も記憶するやうになる斯んな事か

一時とか云ふ處へ正しく針を置いて當てさせます  
が、次第に困難しい時間を覚えざるやうにする、  
例令ば十時廿八分とか云ふやうに一寸考へ悪くし  
て當てさせますので面白い話しでも仕ながら之れ  
を教えると子供も喜んで愉快に遊びます。

しせん すう おもはせ そ かすと うつ うつ うつ  
ら自然と數を覚えさせ、夫れから數取り遊戯に移  
るのです、之れは詰り乘算の九々を覚えさせる爲  
めの玩具で、九々の書いてある札を間に應じて合  
せさせ、同時に裏を起して置き残らず合せ終ると  
云ふ  
一つの繪になる趣味のある遊戯であります。

○時計の玩具　夫れから時間の事を教える爲め玩具の時計があります、母親なり家庭教師なりが時計の針を廻して其針の留つた處を子供達に當てさせ、爾うして一番早く夫れを言當たるもののが優等になります、夫れで最初は極く簡易い十時とか等になります。

健康であつたら充分發育する事も出來ず、生涯の不幸となります、戸外の遊戯も色々あります中に競走が一番身体の爲めにもなるし、子供等の興味あるやうです、繩飛び、棒押しなどは續いて面白い遊戯です。

○木登り　日本の母親は餘り子供を大切に仕過ぎるかと思ひます、玩具なども澤山附ひ過ぎるし泣くと直ぐにふ菓子を與る子供の機嫌を取るには何時も食物だが食事の時間の大切なことを知らないのでしやうか、夫れから可笑いのは木登りで、子供は兎角木登りを仕たがるものですが、親達は危険がつて之を禁止る、西洋では木登りは獎勵して遣らせます、爾うして手や顔に傷を受けたものが一等賞を得ます、怪我をしても泣いたらしくて遣らせます、一週間位軽い罰則を受けねばなりません、夫れだから少し位枝で顔を引搔いても泣くものは少ない子供ながらも泣いたりしては耻辱だといふことを知り自然と膽力を養成させるやうになりますが、

○小供の喧嘩　兄弟の澤山あると云ふ事は實に愉快なものです、兄弟が澤山あると笑つて計り遊では居ない、隨分喧嘩も仕ますが、斯ういふ場合には側に居る母親なり家庭教師は咎めません黙つて見て居る、尤も之れは双方に理由があつて自分達の權利を主張する場合です、一方が正當で一方が不當な時は双方の間に立つて判決を與へて遣ります、喧嘩と云ふと人間の悪いやうに聞にするが、頭でなしに一概に咎めべきものではありません、ケレども一つの玩具を二人の子供が争つて欲しがるやうな場合には双方に與へます、又餘り屢々喧嘩をすると互に罰しられますから、喧嘩をして居ても咎められ、ば直ぐに止める、段々其習慣が付ければ後には喧嘩を仕なくなるやうになる。

○軍人の玩具　大勢の子供をもつて居る家族では健康と教育が一番困難です、尙武教育に尤も重き

を置くのも其の譯なので、男女に關はらず體操と云ふ事は尤も獎勵したい、又遊びに倦きた時には軍人の咄しなど面白く咄して聞せるのは尤も爲になります、又兵士の玩具を持たせるのも至極宜いが、日本のは何うも子供の智識を啓發させる趣味がない、之れは大なる缺點だと思ひます、軍服を着た人形もあるし、槍を持つた古代の武人も玩具に出来て居るが、西洋のとは全く着眼處が異つて居ます、西洋で軍人の玩具と云へば大尉なり中尉なりの軍服から軍帽が悉く其時の制度に法て揃へてある、服装の色から帽子の筋まで、一目して之れが大尉なり中尉なりと云ふ事を子供に記憶させれるやうに出来て居る、中には負傷した軍人の玩具などもあります。

○玩具の始末 凡て戸外の遊戯で勞れた時は、室

内で思ひの遊びをさせます、船の形を拵へるとか機械を造るとか、大工の眞似をするとか、何をさしても無駄な遊びをさせないやうにしますと、爾うすれば遊ぶ間に自然子供心に發明する處がありませう、夫れから子供には『自分で仕た事は自分で仕末を付ける』と云ふ習慣を修養させなくてはなりません、自分が出した玩具を人に取片付けさせれるやうでは、大人になつて物を整理する觀念が乏しくなる詰り玩具などは子供の方が秩序よく収納やうになれば結構です。

○日本の婦人 日本人は一般に物事に聴く、一度賭たり聞いたりすれば直に眞似をして遣つて見る爾うして上手に夫れを成功させますには感服の外は御座いませんが、唯惜い事には活潑の性質を缺いて居る、殊に婦人は餘り静過ぎます、之れは誠

に温順で結構な事だが、斯うなると勢ひ交際と云ふ事に疎くなつて因循して仕舞ひます、言換れば餘り臆病です、モ一少し活潑にしたら實に世界の婦人界に立て間然する處なき美德の婦人が出来やうと思ふ併し活潑と云つても程度がありまして男見た様では困ります。

○子供らしき教育 日本の親達は子供を連れて音楽會へ往くが、西洋には开んな事はありません、幾ら子供が連れて往つて吳れとセガんでも母親は斷然夫れを拒む、然るに、日本の習慣として場所も選ばず親の往く所へは何處へでも連れて往く、之は子供の教育を誤て居ると思ふ、凡て子供らしくして育てないので、夫故西洋には子供の往くべき音楽會が別に設けてある、又日本の子供は、客が咄しをして居る中で遊んで居る、之れは至つて

子供の爲になりません、歐羅巴では厳しく之れを戒しめ萬一客の前へでも子供が出た事なら後で叱を言はれる、要するに大人の集る處へは子供の集らぬ方が宜しい。

○大人と遊ぶ 西洋では子供は嚴肅に育てますが日本では兎角あまやかして愛に溺れ過ぎます。夫故日本の子供は大人の間へ這入つて遊そびたがる爾うかと思ふと庭壇に一人で遊んで居る、考へて見ると譯の分らぬ事で、西洋では子供の遊ぶ時には必ず誰か附いて居て無駄に遊ばせない、智識の啓發、體育上の健康と云ふ事には充分着目して居るのです。

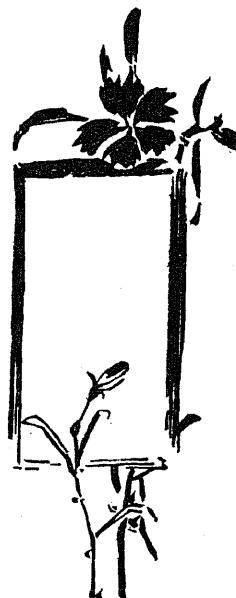
○美的の遊戯 體育上男女とも馬に乗るのは至極宜しい、五歳位の子供でも馬には乗せる事は獎勵したいと思ひます、近頃日本では大分自轉車に乗

るのが流行するやうですが、之れは體力を消耗する事が甚しく過度に疲勞するから宜しくないのであります、其他女子には花束を造らせるとか、美的の遊戯は是非勧め申したい。

○専門の家庭教師 交際社會に立つて勢力の中心點となるのは婦人ですから、交際多忙の母親は子供の教育上多く家庭教師を頼んで、責任をおびて教育して貰ひます、尤もこれは、生活の程度にも依ることで、中流以下の者で家庭教師を頼む資力のないものは從ふて交際も頻繁でないから、母親自身で教育するが、どうも専門の家庭教師の方が経験もあるし母親よりも上手に保育するかと思ひます。

割烹

石井泰次郎



前號のが豆腐料理ですから、次には松茸といふ順序で、豆腐に松茸の味をそへて見ましよう。

いり松茸の揃方

松茸を能く水で洗ひまして、小口に斜切に切りまして、銚鍋をからのまゝ、炭火の上にかけましたのに、入れまして、手早く箸でかきませます、少し燒目かついた位の時に、醤油をさしまして、又かきませまして、それから柚子のしづり汁を加へ

まして、皿にとりうつします。

いる時に、いりすぎるとマツクロになりますから、注意して、それから醤油も濃いのなら、湯と半分わりにして、入れたのがよいのです。子は、四つ切にして、汁をしばつてふきましてつかひます。

### 三益酢の搾方

これは、松茸の中ぐらゐのを、茎ばかりを、たてにうすくタンザクに切りまして、煮えたつた湯の鍋の中に入れて、すぐに出して、湯の汁を切て、三ばい酢の中へ入れます。三益酢は、みりん一合、醤油五勺、酢一合ぐらゐのわり合で、酢を煮かへして、醤油とまぜ、みりんも煮かへしてませて、器に入れてふくのです、

### ひたしもの搾方

これも、前のと同じ様なのです、茎と笠と兩方にも、極薄く薄刃庖丁刀で、切てざつと右のやうに湯に入れて、出してから、柚子の汁を入れた醤油でひたして、胡椒の粉をすこしかけて出します、またこうしないで、丸のまゝ湯煮したのを、引いて、柚子醤油にひたしても出します、

葛煮の搾方

くず煮といふのは、餡かけの煮込みましたのです切方は小口でも、斜切でも、まづ湯煮をしまして、みりんと、醤油と、水とを合せました汁を、みりん一合、醤油一合内、水一升のわり合で、搾へまして、能く煮立まして、其汁の中へ、葛粉を水でといて二十五匁入れまして、あんにつくりまして、松茸の切つて、湯煮したのを入れましてかきまわして煮ます。

## けんちゃん松茸の搾方

四十

松茸の大きなのを、莖ばかりを、ぐるぐると上皮をむき去り、中のをあつさ五重ほどに長く切れな

いやうにむきまして、平たくしてれていて、其上へうどん粉をふりかけまして、其上へみつばを洗つて、切そろへたの、さくらげの洗つて湯煮して、きざんだのを入れまして、くるぐりとまきまして竹の皮の細いので、二所ばかり結んで、あぶらであげます、五分間ぐらゐかゝります、おろし醤油で出します、あげたのを二つ位に、小口切にして出すのです。

## 湯まつだけ搾方

松だけを、水にて能く洗ひまして、切方は、小口でもたんざくでも、湯なべへ入れて湯煮しまして器へ入れまして、上からくずだまりをかけて出します、くすだまりの搾方はとうふのところにつてあります。

これは中びらきの笠ばかりを、あつく切て、ごまの油であげて、おろし醤油で出すのです、

## でんがく搾方

このほかにも、かずく搾方があります、あ

まことに御はなしして居るうちに、松茸がうらされ  
て仕舞ひますといけませんから、もう此位にし  
てれます。

とうふは、松茸、其他たけるるの毒をけす、と  
いつて必ずつかひます。

家庭に於ける所感(承前)

長野縣 飯塚忠次郎

(七) 小兒と疑問

お子さんのある家庭などでは既に御承知のこと  
であろうと存じますが、とかく小兒はみたりきい  
たりするごとによく疑問を致しますもので「草は  
どうしてはえるの、ごはんはどうしてこさうの」  
と、それは種々様々な自分でわからない事  
は何によらず一日の中に問ひかけます、それにた

いして世間一般の家庭の人達は親切に丁寧にいち  
いち其間を空にせずに、答へやるといふゆかしい  
心をもつてゐるでしようか、私はもつてゐられる  
とはつきりと申たいがなにがさてそういうふとは今  
日までの視察によつてみますと斷然出來ませぬ、  
何故で御座いましようか、それは小兒が疑問を發  
すると多くの家人は「そんなとは誰れにおさへ」と  
かいふて、一向とりあひませんのみかうるさい様  
な顔色をして「おまへはよくじろんなことを、さく  
こだねえ、しつこいよ」と何たる同情のない言葉で  
御座いましょう、小兒が疑問をはつするのは實に  
智識を啓發する端緒ではありませぬか、疑問を發  
する小兒の心をかわいゝとお思ひになりませぬか  
塵つもつて山を成し一滴の水も集つて大河をなす  
のたとへのとうりで、此様ないとき、いな事でも

丁寧に満足するように答へてやると否とは、小兒の智育の進歩の上に大なる影響の生じて来るとは當然な道理で御座いますから、如何なる場合に於けるも事情のゆるすかぎりは問ひをかけられたならば、言葉徐々に簡短に明瞭に理解するよう説明してやらなければなりません、それを行うとしてやらなければなりません、それを行うといとなんとか云ふてせつかく小兒が發した問を無にしてはなりません、わからなかつた時は小兒ががてんするまで説明してやつてほしい、たとへ一寸したとがらであつても丁寧に答へ教へてやるのが家人として當然なすべきの義務と考へます。問をかけられたときに丁度自分が手をはなされぬじとをしてゐた場合には「今はどうがあるからすんだら話をしてあげるよ」と言葉ふごそかに言ひ渡して置いて、床につくときかなにか閑

のあつたときには必ず説明してやるよう、そうすると小兒はそれだけ智育が増進することにつまるところは其小兒の幸福と云はなければなりません、然しこちがいに小兒の發する疑問をなにもかも答へてやれとは申しません、疑問にもいろいろ御座いますから悪いとみとめたならなるべく小兒をしてそんな疑問をはつせしめないよう心掛けいたるて、之れは有益な疑問だとみとめたならばとしどし説明してやつてもらいたいので御座ります、それゆへ事情のゆるすかぎり小兒をして少くとも益のある様な即ち小兒智育のかいたくのいぢぢよともなる疑問であると發見してなら、何卒はなしてやつてくださいまし、之れに反しましてこんな疑問はちつとも益にならない害があるとみとめたときには、よく小兒にわかるようにいき

かして此後そんな疑問を發せしめぬようにせねば  
いけません、小兒をしてかくのごとく疑問を生ぜ  
しむる原因は周圍にある事物の大きに力あるもので  
す、たとへば其家の家風は勿論のことこれにつれ  
て、住所の位置、其家に出入する人の品性の如何  
によるものでありますから、能ふかぎり小兒をし  
て悪いことを見せぬよう聞かせぬように、平素か  
ら注意せねばいけませぬ、小兒をして完全な教育  
をほどこしたいと思ふたなら其任にあたらるゝ其  
人から先づ第一に自分のことを三省すべきであ  
る、家庭の誰彼の論なく家人たるものは家庭教師  
の任があるから小兒の疑問のことばかりでなく萬  
事忠實に熱心にやつてほしいのである。

## (八) 小兒と菓子

小兒が行儀をよくした時、學校から歸途した際、

御褒美にとかいふて世の親達が小兒に惠與する菓子は家庭教育上からみても、甚だ關係のある物品で御座いますから、何卒之れが選擇には大に心を注いでなるべく害にならないものを特にえらんで與へなければなりません、現今普通市内の菓子店の製造人は所謂公徳問題を解せぬせいか、忠實でないか同一の品物にも時に依つて良否が御座いますゆへ最も信用のある店に行つて新しいものを買ひ求めて、適宜にやらねばいけません、そうであるのをかゝる事についてはとんと否いつこうに心にかけられないためか、世の多くの親達は菓子といふなのつくるものならばなんでござれ、小兒にあたへるといふ風習がどうもありがちなようにおみうけするが、あれは衛生上からみても家庭のうへからかんがへてみても尤もわるいことであると思

ひます、それがために腸胃をいためたりすることはありません。そのためには、適度なる分量を守つて之を用ゐ、適切なる時間に於いて與へないからです、身体の成長を計る所以の方策と成れるものは重に飲食に供給する品物でありますから、よほど注意が肝要と存じます。(未完)

### 武田錦子君の女子教育談

先月十七日、東京市教育會講演會の席上、武田錦子女史の演説の中、女子の學校教育に関する一節は、殊に趣味深ければ左に紹介することに致しました。

『いまの女子を教育しやうとする父母達は、其の兒の學問知識の發達することを望まないで、學校を卒業したといふ證書がほしさに一生懸命である

現に、澤山の女生徒の中には、どうも成績のよくないものがあります、これは勉強が足らない特に家庭にての復習が不十分であると思ふのでわざこの旨を傳へて、親達に注意をうながしますと、其返事はまことに意外千萬で、『自分の娘は、何も學問が上達しなくともよろしい、どうか斯うか卒業免状さへとれるなら結構でござります』とすげなく言ひきるので眞に意外に思ひます、がこれは元來親達が娘を學校にやる目的が誤つて居る故であります。

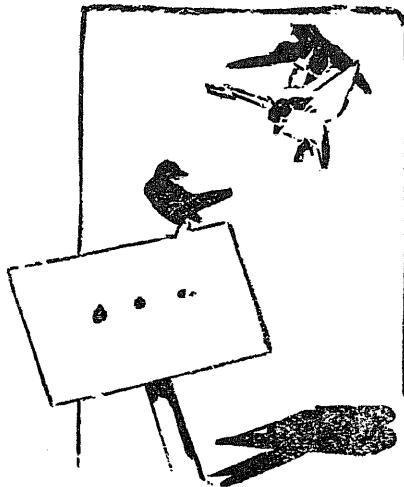
如何いふ目的で女兒を學校に通はすかといふ、嫁入の看板をふやしたいためであります、今日ではだんぐと教育ある女兒を嫁にえらぶものが多くなつたので、縁談のことについて女兒をさがすものは、大概は學校卒業の有無を訊ねます。だから

親達は女兒をかたづくる道具として、高等女學校の卒業證書を欲し、それで女兒を學校に通はします、だから學問が出來なくとも、技藝が下手でもそんなことはふ構ひなし、たい何とかして試験に及第し、卒業證書をもらへば他に用はないのであります、このやうな考をもつた親達に、女兒の家庭教育が出來ないのは無理のないことで、女子教育の効果があがらないのも無理ではあります。女子教育の主眼は、獨立の出來る女子を養成すること、教育をうくる女子も、この覺悟をもつて學校にのばらねばなりません、獨立するといひましても、是非に獨立して生計をたてよといふのでないでの、獨立してゆけるだけの教育をうけておいて、そして後に妻となり母となつて、はじめて立派な文明的な婦人となり、幸福な安穩な生活を

おくることが出来ます、若しもこの獨立するだけの教育がないときには、萬事を夫に依頼せねばなりません、それで夫がいつまでも依頼されると、必ずさうはまいりません、如何なる不運によつて寡婦とならねばならぬか、これも計らなければなりません、夫としてかゝることさがあつたならば、獨立することの出來ないものは如何なりますか、財産でも澤山あればよいかも知れませんがそれも、皆みな左様はまいりません。この度びの戰争には、若いお仁が名譽の戰死をなさいますので、まだ年齢もゆかない未亡人が澤山出来ます、まことに氣の毒なことであります、そして彼様なお仁のうちで、如何して此後を生活してよいか、と訊きに來たのも随分多くありますがこれらを見ましても女子に獨立するだけの教育を

左の唱歌一篇は別項記載の附屬高等女學校運動會の  
折合唱せるものなり

うけさしておくとは必用であります、戰場にむか  
はる、軍人も、自分が戰死したときは、殘る妻が  
獨立して遺子を育て、ゆくことが出来ると承知し  
て居れば、その勇氣は一層ますであらうと思ひま  
す。



### 傷病兵士慰藉の歌

#### 第一節

國のためとて

銃の烟りと

しのぎて得つる

われ等少女は

感謝をいがでか

#### 第二節

家をば離れ

弾丸の雨を

君がなやみ

心にあまれる

あらはし得べき

かしこみまつり

血汐飛ぶも

進みし君よ

歴史を飾りて

千代に八千代に

君が勅を  
劍を  
正義を楯に

世を照らさむ

第三節

君がなやみを

われ等うちつれ

つたなき技を

ともにをかしと

今日の一日を

見まして聞かして  
笑ませ君よ

こゝに出でぬ  
つたなき歌を

慰めてんと

こゝに出でぬ

つたなき歌を

旅順口の寶艦

ハヤシ生

其一ツエザレウキッチ

八月十日の海戦に

先頭にたちて出たるが

指揮に任せし司令官

參謀諸共慘死遂げ

多くは傷き打撲れ

ツエザレウキッチ旗艦  
我艦隊に雨撃され

ウキットゲフト中將は  
艦長以下の將卒も

煙筒破れ船機損じ

其二ノーヴキック

東洋艦隊多きうち

かの黃海の劇戦に

膠州灣に遁れしが

浦潮さして遙々と

のがさす討我國の

宗谷海峡に現はれて

逃げゆく彼を見てしより

聞くもなかへ心地よし

其三アスコリッド

旅順壓迫されしより

我艦艇に遮ぎられ

脱出はかりし敵艦は  
支離滅裂に破られて

進退こゝに窮りて  
膠州灣に遁れ入り  
哀れはかなの姿かな

艦列離れて這々と  
忽ち武装解きにけり

其名を知られしノーヴキック

己の速力特みつゝ

こゝも危くみてとりて

日本の南海よぎりたり

千歳對島の一勇艦

コルサコフへと索ねつゝ

進み迫りて擊破せり

さよならひあはへ

ててかん

をのがじゝに散りければ 惨撃受けしアスコリッド

われも力の限りにと 上海港に逃げ込むや

船渠に入りて圖々しくも 修理を爲すとて出て來ず

支那の無力を悔りて 中立権を無視せしが

かさねし數度の交渉に 漸く武装解除せり

恥かきさらす様見よや。

あ一惱然!!

林 天 然

此世は浮世じや暗の世じや 荆あり蛇あり鬼もある。

荆あり蛇あり鬼もある。

\* \* \* \* \* 懲然や彼の子美以ちやんは

\* \* \* \* \* 今頃何處で何をしてる

\* \* \* \* \* 家内では怒鳴られ叩かれて

\* \* \* \* \* 家外では他兒に馬鹿にされ

\* \* \* \* \* たつ瀬がないので泣てゐる

\* \* \* \* \* たゞせてやれな背を撫で、

\* \* \* \* \* 見えねど涙が目に餘る

\* \* \* \* \* 手々ひいてやれな善い道に。

腕白盛りの頃なれど

目はみえないし慈母はなく

便るはかばとい杖一ツ

何うして此世を渡るだらう

フレーベル會俳句端書集

一、課題 新年雜 一人十句以下

- 一、披露 明治卅八年一月發行本誌文苑欄
- 一、賞品 天地人三座には美景を呈す
- 一、撰者 當分本會の撰とす
- 一、投稿 本誌購讀者は何人にとっても投吟する事を  
得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意  
住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛  
にて送らるべし。

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

第四回俳句端書集

知らぬ子も抱て見せたる花火哉 小石川區平岩學洋

暮てよき家となりけり月の萩 同

亡き人の遺髪届きぬ秋の暮上 總前田幸作

露散りて氣高き菊の薰り哉 埼玉青葉尹人

道問へば案山子なりけり秋の暮 同

常盤木の中に目立つや夕紅葉 武藏芦田水山

薦這ふた蕉翁の碑や蔓珠沙華埼 玉高歳子

秋風に故郷懐ぶ露營かな東京松の舍

こほろぎや聲も細りて月五更 同

見るものに聞く者に唯秋の暮 本所區久米辰子

姉はもう他家のとなり後の雛 同

霧深く海賊船を逸しけり 同

瀧柿やまる三年の恩知らず 同

屠所に行く牛の歩行や秋の暮 同

新蕎麥や塗り直したる根來椀仙 吉立花一瓢

花譽めた山から先や初紅葉 同

鍬洗ふ流れも枯れて冬隣 同

一と群は社の森や渡鳥 同

切々の雲縋行くや渡鳥 同

初秋や枕にも知る朝の冷羽 前門地一樂

戰捷の前兆ならめ稻の出來 戸田一豊

明月や千歳を經たる松の上 同

三光

寄合ふて印つけゝり種ふくべ 同

陣中の明月

猫の來て愛想添へけり秋の雨尾 張田中松窓  
立つ鳴の行方見送る繩手かな上 総川上九如

雨に減り風に減り行く残暑かな神田區美恵子

月に目を閉ぢて虫聞く一人かな丹波金子松仙

出家して心閑なり月今霄 埼玉會田松聲

朝霧や渡船に近き馬の聲 武藏山下柳勝

鳴啼くや夕日の落て越す渡船 真水庵

月は江に残りて寒し遠水札京 都本多芙蓉

何もなき小庭の隅や鶏頭花 同

心まで晴て月見る今霄哉 月田一甫

目さはりのなくて澄けり秋の山 同

道聞くに又も尾花の一里かな 江面庵富寶



## 信州の秋

### 小林雨峰

こより、長野に向ふ。名にしふふ善光寺詣でも二度三度となりては珍らしくなし、まして後生を願う野心もなければ、本願上人も大勸進もわれにとりてはさばかりの信心も起らず。いや、わが信仰とは愚夫愚婦と共に氣息めにする信仰にあらねばなぞ、なま悟りと云はれんも詮なけれども、みから心なればかくは白状して世を欺き人を偽る似非信者の面皮を剥ぎ置くべし。

城山館に上る、眼下六郡の山河を望む、千曲川の流は鮮かに掌上にあり。西北は善光寺の伽藍を傍りて山巒屏を列べ、遠きは翠色滴るが如し。此地秋尚早くして、天に落木の聲なく、地に蟲聲の涼を帶ぶをきく。

見渡す限りの平田は、稱して善光寺平と云ふなり、地は山を界して、一帯平坦の境域を餘す。稲

せのが、夜を徹して止ます。(廿六日)  
棧道を辿りて、朝早く再び篠の井に戻りて、そ

(二)

今日は赤田村にゆく、家は高き山上にあり、煙火の氣なくして、静寂譬ふるに物なし。擣て、秋雨は午後より降りしきりて、檐滴の調子よき音の

五十一

香こぼる、斗りに穂は實りてうなだれつゝあり、

豊年の喜びも傀はる。

善光寺を背らにして、東の方川田村に向へば、

南より西に掛けての山々の姿は、今迄手に取る如

く鮮麗なりしもの、倏忽にして其の姿を變しぬ、

西南の方にあたりて、雲雨濛々として湧きたちぬ、

宛がら大軍の襲ひ來りたらんかと見る間に東の方

山の一角、また／＼黒雲俄かに湧きかへりぬ。其

の勢は、直ちに西の方にと奔りゆきて、西軍を衝

くが如く、満天の淒氣、われは今鬼神に後襟引搔  
るゝ如くなりぬ。愴然たり、悽然たり。

北の方善光寺裏山をかけて、飯繩、戸隠の方を望

めば深碧いよ／＼濃く、印度藍を抹したるが如く、

一角の鮮影を餘せり、見る間に東南の山は洗ひし

如くなりて、雲の切れ目に碧空ぱつと現はれぬ。

暴風の兆にやなそ氣遣ふ。

千曲川の滌に至れば水聲どう／＼として當年の

軍馬銜枚の傍と思はる。急流幾曲折するとこ

ろ、千曲の名にふさはし。岸に生へる蘆葦蒹葭、

風に靡きてさら／＼音なすも心地よし。あゝ秋は

全く深くなりたるなり。

無造作に架せられたる橋を渡りて、川田村にとつ

く、山を離れて僅かに人間に入りし思あり、家に

面せる山には、既に白き雲綿を亂せるが如くか、

れり、暮れんとする空は、この家を圍んで早くも

旗雲の襲ふが如く見ゆ、今夜星の空に飛ぶを見る

を得べきかとて寝ぬ。(廿七日)

あはれ『自然』が人を感ぜしめ、人を弄ぶところ、

人工をもて人を育むに勝るものあるか。見よ、山

の姿の寸時、分秒、刻々に變じ、時々に移るが中

に、山其のもの、不動の姿勢を宿せるを。聖者に如きそれに似たらずや。心は泰然として動かざるが如きも、物に觸れ、境に接して有ゆる事に變化の妙を現はし、垂訓一様ならぬ多きに考へよ。

われ山に入りて既に五日、此の間に受けたる『自然』の教訓はそもそも何ぞ、信州の地、由來古蹟と靈場とに富む。近時蠶業大に開け、經濟の度頗ぶる高く、世は信州の富を稱す。されどわれは此の境に於て受けたる教訓はさにあらず、不動の山巒なり、變化多き峰影なり。雨多き山々なり。雲多き山々なり。到るところの奇峯、雄渾の姿なり。水村山郭はこの信州に到りて、始めて趣多きを見るなり。秋は何れの地に到りても遍からずといふをなけれども、山の秋は格別なり。殊に信北の山の秋はまた更らに格別なり。一日たち、二日たち、過ぎく

て十月の中ばにも入らば、かの翠影は變して樺色の山とならん。野の花も、野の草も色濃く黄ばみ、果ては枯れに枯れうら寂しくなり果てん。『自然』の教訓は限りなきものなり、

われは山の奇峯雄渾なるを愛づると共に、細き路の邊の野菊を愛す。山に喚けるものはまた更らに幸多かるべし。谷川に生ふの小魚、また愛らしきものなり。自然の慈愛は思ひがけなき處に宿るを見すや。

山路の嶮なるは云ふ迄もなけれども、自然是この嶮を侵すの旅人を苦しましめす。また妙ならずや。疲れ果て、一樹の下、一塊の石に凭りかゝりて、彼方此方眺むるに、直ちにわが眼はかの起伏せる峰巒、蓬勃たる雲煙、細き徑、草わけてゆく豆人寸馬の方に奪はれ、あるは遠く聞ゆる、馬

子歌に、近く聞ゆる蟲の音に、心ひかされざるか  
は。疲れはかくて遂に忘らるゝなり。

咽喉の渴きたるとき、石徑を下りて、ちよろち  
よろ、とば／＼する岩かげの間、叢の下を流れ流  
れ来る細き清水を掬へば、其の味醇體の如きもの  
あるを知らむ。其の音の遠く／＼に流れゆく囁き  
を聞かずや。

『われらは此より人間の巷に出るなるよ、若しや

岩石に觸るとも、われらは有ゆる苦痛を忍びて流  
れゆくべし。さては大舟小舟を渡すべき大江の流  
れともなりなん。如何なる境遇に遇はんも努めて  
ふのが務を果さんさらば／＼』と、これ溪流の囁  
きにあらずや。

日は暮れたり、風音高くなりぬ、『秋蘿生樹石』の  
趣いと深し、陰森なる樹木を繞らせる垣根越し

に、かの空を仰ぐに、星は綺羅の如くかれり。  
銀釦をもて彩れる天井のそれの如し。夜の美はこ  
ゝに極まれり。千曲の流に落ちて碎くる星影いか  
ならん。黒闇々たる間に閃く此の星、さなきだに、  
罪深き人の子の尊き聖りの教をきゝて、始めて清  
き淨き心のふと浮びたるときのそれに等しからず  
や。あはれ天上闇夜の星を仰ぎ見よ、愛らしきは  
闇夜の星屑の閃きにあらずや。

轡虫は墻越に鳴きて嘩々たり、其の断續の聲人の腸を搾る。一疋の促織虫は座敷に飛び込みきた  
りぬ。やがては死する短き命なるべし、其の鳴く聲は何を語れる、己が死を咀ふの聲のそれならず  
やは。『自然』はまたわれらに一樣の教訓を與ふ。

われは詩を吟するなり、歌に思を擗ぶるなり。  
虫の鳴くと何の擇ぶべきとかわる。而もわれは虫

の音の人の情を動す程に、詩も歌も口より出でさるぞうき。あゝわれ虫にだも如かざるか、道ゆく

折雨の灑くが如く亂れなく虫の聲をきく毎に、し

かく思はざると稀なり。

檐に座してまた蒼天の星影を數へぬ、二つ四つ

五つ……

夜半眼を覺せば風風きて雨となりぬ。ぱつり  
さてはざわ～とふり出づ。あすはまた雨ならん。(廿八日)

(三)

雨は條つく如く強し、靄は四面を籠めて聞く、  
薄き煙の如く木々を縋る。桑の葉を撲つを見るに

葉はかかるがはるに動きぬ。箋、笠きたる人の行くと見るに、葦の如くに見えて面白し。  
友より信書來る長野にこよとなり。懷しきは今

朝の消息なり。雨小ぶりとなる。

赤蜻蛉の電信柱にとまれる、三つ四つ五つ趣い  
と多し。唐辛の細き繩に貫けるが如し。全し赤蜻  
蛉の倒れて雨に羽搔を取られたるが、脚下に横は  
れり。あはれるまゝに拾ひぬ、澤つやしたるが  
雨を浴びてことにうるはしかりけるものを。

午に到りて雨はやみたり。雞の聲そここゝにき  
こゆ、ゆかしきものなり。(廿九日)

朝の光りは東の山の端にさら～とかれり。

千曲の濁流音はげしくいとも凄し。雲は大方はれ  
てすが／＼し。ちぎれ雲かしこゝに漂ふ。善光  
寺の人家近く見ゆ。

風は冷かに穂末を渡る、綿の花、小豆畑に交は  
りて咲きたるが粟の穂列と連れり。高き唐瓜棚、  
低き糸瓜棚と列べる村舍目に入る。何れも自慢顔

に實れり。立つと五分時斗。

川田村の家を辭し去る。蒲蘆の間をざわくと船にてすぐ、千曲川の架橋夜來の豪雨に撤せられたればなり。こゝは千曲の尾川と合して流るゝ處なりと云ふ、川幅廣く磧は一面に水なり。舟行矢よりも疾し。

堤を越え田甫を過ぎて再び長野に入る。秋山晴れて冷々骨に砕す。姨捨山に向はんとするなり。待りし友も一行に加はる。

篠の井を経て姨捨に向ふ。東北と西北の兩山脈千曲の流を挾む。人家點々、竹林濛密、松樹疎々山の中腹高き勾配にて漁車は走りゆくなり。姨捨の停車場は山腹にあり、觀月遊覽の客に便せり、やゝ下りて其處に姨石あり、姨捨の名こゝに生ず、石に接して觀月堂あり。傍らに長樂寺あ

り。石上に座して眺むるに右に鏡臺山あり、南にめぐりて冠着山あり、明月鏡臺山の頂に登るのとき、こゝに之を望めば圓鏡を掛けたるが如きものありと云ふ。惜らくはわれ月夜に會せざるを。小池あり今は水涸れたり。寶ヶ池と云ふ姨石の下にあり、前面後背山ありて連る。其の梯楷を爲すところ、眼下万頃の稻田、其の觀月堂、長樂寺に接せらるだらへ下りになれる處の稻田に月影を分映すと云へり。これ即ち田毎の月と云ふ所以なりとか、月痕印すべきにあらず、況んや中秋稻穂まだ刈り取らねば、月何とてか宿らん、田毎の名は古人の想像によれると、云ふ迄もなし。

川脈の白きと稻田の黃なると、對映頗るよし。桂の木、子袋石、こゝの名物として數らる。車橋は今あとなし、千曲川の流のみ變らず。

雲は今波を打ちたるが如く、西北の山上に浮び出でぬ。

八幡、杉の木、稻荷など云ふ小村の一望下に人家の點在を示せる宛然箱庭の如し。淺間は群山

の間より東のかたに見ゆと云へりしが、知らずして去る。北の連山に眼を配れば、脈は三層にも四

層にもなりて、一層目は深翠を凝らし、二層目は薄翠に、三層目は淺青色を爲せり。四層目に至りては灰色の如くになり、次第に薄れゆくなり。

其の盡くる處の山に今雲は浮き出でたるなり。西の方飯繩、戸隠を中心として、脈は南方に驅けりぬ。雲はまた白く蓬々として覆ひかゝれり。

其の南の際の山に寄りて、この停車場はあるなり。月なくも屈強の遊覽臺はこれなり。

われは今歸途につくべく滝車に乗りぬ、松本よ

り來れる室内の人は何れも目を擧げて窓外の風景に醉はざるなし。雲は幾重にかなれる紫雲、西の山の頂より北にかけて、もろ手を擴げぬ。變り易きは秋の空のそれと知られぬ。

稻田の幾枚ともなく層を爲して、上は段々に斜に縞目を織りて擴かるを見つゝ、滝車はひた下りに下りぬ。

かくてわれらは長野よりも更に東の都に歸りぬ。(三十日)

### 幼稚園案内

東基吉

右の題で、本誌第三卷の第九號から書き始めた

のであつたが、都合に由りて途中で中絶させたのは、頗る讀者諸君に對つて濟まなかつたと思

ふ。夫で、こゝに更に筆を改め稿を新にして號を逐ふて續けることにする、そこで、先づ、今迄に書いた所は次の諸項であつたから、夫だけは省いて、其次から、書き始めようと思ふ。

### 一、女子の職業としての保母

二、現今幼稚園及保母數

三、保母養成所

四、保母の資格

五、幼稚園の種類

六、幼稚園の本旨

七、保育の要旨

八、保育上誤謬の見解

九、保育の方便

十、保育時間のこと

大體以上の順序を逐つて書きましたが、之から

其續きに遷らうと思ふ、尤もなるべく専問的に記述する方法は避けて、極通俗に、つまり誰にでも、家庭に在つて何人にも幼稚園の保育の理屈の知れる様に書きたい考である。そこで先

### 一、遊戯

の話から始めませう。これは保育の方便の處で多少記述たし、且つ松村久子氏の幼稚園の遊戯といふ題目で、大分詳しく出て居ましたから、夫に譲ることにして、こゝには極大體に留めて置かうと思ふ。

近頃だん／＼子供の遊戯のことが注目せられて来て、學校では勿論大に研究せられ、従つて遊戯の理論や方法に關する書物なども出版せられるし、又家庭の方に在つても、子供の遊戯といふことに餘程氣を付ける様になつて來たのは、まことに結

構なことである。

一體遊戲といふものは、實に以て生れて子供の嗜好に適したものであつて、苟くも子供といへば遊戯を好みはない、若し遊戯が嫌だといふ子供があつたら、それは非凡な子だ、何れ身體の上か或は精神の上かに、通例と異なつた所があるに違ひないから、例令ば、何もして遊ばないで、たゞ愚圖々々して日を過ごす様な子供があつたら、夫は餘程氣を付けねばならぬ。そんなら、何故子供が、この通り遊戯を好みといふに、夫は、つまる所、子供の時は其活動力が十分なからで、即ち神經活動力が強盛なからである。

そこで、此通り、以て生れて好きな遊戯であつて見れば、この時代の遊び盛りの子供に遊戯をさせないといふのは、甚だ酷な話であつて、言はゞ子供は、興へられた自然の賜物を奪つて仕舞ふものといつてよい。専問的にいつて見ると、子供の取扱上、自然に反した仕方といはねばならぬ。のみならず、自然が、これ程までに嗜好に適したものを受け等に賜はつたにつきては、何れ子供に取つてどれ程かの大なる利益がなくてはならぬ。これは、少しく子供の教育に注意するものゝ、一般に認める所であつて、先づ誰でも次の事は承認が出来ようと思ふ。

一番に早い話が先づ、遊戯といへば大抵は運動が伴ふのが多いから、此時代の子供の身體の發達には遊戯が一等である、駆けづくらをやるとか、鬼ごっこをするとか、或は木登り戦さ事慙投げなど悉く身體の各部を運動させる、然も、遊戯の時には、一切萬事を忘れて運動するのであつて、極

めて愉快に、少しの心配もなく自分の思ふ様にやる、一體物事に苦興々々する程身體の害になる事のないと同じ様に、心を愉快に持つ程身體の爲になる事がない、大抵の病氣などは、心配しないで面白く暮すと直つて仕舞ふものだ、子供でも其通りのことであるから、たゞ運動で身體の發達を助けるといふ他に、心を愉快にさせる處から、身體の爲になるといふ點も餘程大きなものである。だから御覽なさい、遊戯の嫌な子供といつたら大抵は顏色の悪い、不活潑な子供に限ります。之は主に身體の方の側からいつたのであるが、精神の側から見ることも頗る肝要だと思ふ。先づ、遊戯に由つて、自制とか共同とか同情とかいふ所謂社交的道德の涵養せられるといふことは著しい點だと思ふ。子供が之等の社交的道德の種子を得るの

は、實に同輩との遊戯に由るのであつて、子供に遊び仲間の必要といふのは、主に此點にある。體子供は頗る我慾が強い、人の事などはどうでもよい、自分さへよければ夫で構はぬといふ風なのである。所が、これが仲間全志の遊戯で以て大に矯正せられる、といふのは、友達と一所に遊ぶとなると、どうしても、そう／＼自分のことばかり考へて居る譯には行かなくなる、夫では遊戯は丸で出来なくなる、そこで以て、一身の我儘を制して人と事を共にするといふ美風とか、又は自分を推して他を思ふといふ美德は、自ら涵養せられる事になるのである。夫からも一つは制裁に服従する習慣を得させることで、一體遊戯となると、子供同志の間に、何等かの子供相當な規約が出来て居て、夫に由つて遊戯が出来て居る、夫を守らない

と、或は仲間から、退けられたり、或は、てんで遊戯といふものが成り立たなくなる。そこで、遊戯は自然に法律とか約束を守るといふ良習慣を得させる事になる。夫から、も一つ之は餘り人が注意しないが、然も、極めて大切な要素がある、即ち遊戯によつて、將來、意志の強固な人間が出来るといふことである、一體、自分で自分の意志の儘、自分の信ずる所を決行するといふのは、頗る貴ぶべきことなので、何事も人の言ふなり次第、人の意志の通りに行ふ人は、いはゞ機械の様のもので一向取るに足らぬ人といはねばならぬ。そこで、若し子供が始から、其一舉一動始終大人が干渉して、何かしら何まで大人の意志の通りに働かせるのであると、丸つきり子供が自分で以て自分の意志を働くことが出来なくなつて、子供の動

作が丸で機械の様になる。夫では、成長の後も自分で自分の意志を実行するといふ氣力がなくならう。所が、自然是子供に與へるに早くから、子供自身で意志を決行する機會を與へて居る、即ち遊戯の時は、子供は全く大人の意志から離れて、自分が自分の意志の實行者となつて居る。これがそもそも、遊戯の大に價値のある處で、遊戯を教育に利用する者の深く考へんければならぬ所である。

最後に一言するのは、遊戯に由つて、子供はいろ／＼の社會上の知識を得るのである。西洋の學者は、遊戯は子供が將來の社會生活上のいろ／＼の職業の下稽古だといつたが、全く其通りで、子供のして居る遊びを見ると、戰争とか客事とか、人形遊びとか、土堀りとか、とかく大人の社會の

◎女子高等師範學校

附屬幼稚園分室（八號の續）

一、家庭に關する關係

職業の眞似をして居る、之で以て獨り手に社會的居ると數限りもないが、特別な遊戯になると、色で以て眼の練習になるのもあり、考を要する遊戯で以て、推理の力を發達させるとか、いろいろあらうと思ふ。

だから、兎に角、子供に遊戯を禁ずるといふのは天與の快樂を彼等から奪ひ去るのみならず、全時に、此時代の子供の教育上、主要の方便をも奪ひ去るものといつてよい。而しどの遊戯でも悉くといふ譯でない、中には隨分有害無益なものもあるから、それは、保育の任にあるものが氣を付けねばならぬ所である。

（此項未完）

又一方より考ふれば彼等幼兒の父母は概して無教養なるが爲に幼稚園にて一日暖めて家庭は十日之を冷すといふが如き憾は免がるゝを得ず、且つ幼

幼稚園に在る時間は家庭に起居する時間の總計よりも短きを以て、一方に於て先づ其親を教育する事よりはじめざれば其子を良く導く事難し、即ち家庭との連絡は特に必要なれば時に父兄懇話會を開きて父兄に教育の理法其他注意すべき事項を説きた時には保姆親ら家庭を訪問して彼等の社會觀察に兼ねて其母に説く事あり、又特別に良からぬ幼児などある時隨時父兄を呼出し相談する事あり要するに幼稚園に於ける教化の効果を一層大ならしめん爲に且つは家庭の爲に園と家庭、保姆と父兄の連絡親密はできる丈之を圖るつもりなり、而して簡易なる教育的理法を説きて一旦父兄の理解する處となれば極力正直に之を遵守し命ぜられたる通に其子を取扱ふを以て、一度母に説きし事が豫想以上に効ありて存外早く其子の良くなる事

などあり、此の如きは父兄と保姆の社會に於ける地位の異なる爲に父兄が保姆に對して大なる尊敬を拂ふにも由る事あり、かゝる事は下等社會の幼兒を教育するに當りて常に遭遇する種々の困難を償うて餘りある教育的愉快なりとす。

### 一、一般幼兒の特別なる傾向

男兒中のAは附記欄に掲ぐる如く手も八丁口も八丁といふべき子にして其在園中は衆兒間に於ける勢力此兒に匹敵する者なく常に衆兒殊に男兒仲間の頭となり物事の建設者となり命令者となり、爲に男兒に常に此兒の爲に統一せられたり、但し男兒中のBのみは中々剛き性格を有せる子なればAに常に従ふといふにもあらず、さりとて之と互角の勢にて争ふといふにもあらず、圓滑に事を共にするといふ風なりき。然るにAの事故ありて退園

するや永く統一されし男兒は一時瓦解して一致協同する事少かりしが、之は少時日にてやがてAに代りて自ら頭角を現はし來り、又衆兒も之を推重したるは右のBなり、此BはAの如く華やかならずして優良にしかも自ら好んで人の上に立たんとするものにあらず、然れども其人物の良き爲に以前よりも隱然良感化の中心たりしものが、一朝目立ちて働く人の去りしに逢ひしなれば期せずして確固たる勢力を衆兒間に有する事となりAよりも、より着實に、より親切なる頭領となりし觀あり、但し此以後の時日少なくして本年度も終を告げ、B其他は轉學したればBが果してAに比して如何に良き勢力家になるか、衆兒が此子に由て如何様に統一さるゝやは遂に見る能はぬ事となりぬ、

右は主として男兒に關しての事なり、女兒中のものは男兒中のBに匹敵する優良なる兒なるも、女性の本性として男性ほどはたらきかけて他を統一するなどの事はなきを以て實際は良感化の中心とはなれるも、特に衆女兒が此子に統御せらるゝ事は少しもなく從て女兒は終始圓滑に個々別々に生活し、日を送りぬ、要するに大人の社會に於ける優勝劣敗は男兒間に於て著しく其萌芽を見せたるも女兒には之を見る事殆どなかりき、

右ABC三兒の性格等を参考の爲左に附記す、  
A(男)、六年九ヶ月、荒物商の子にして兄弟中最も賢き子として祖母父母に鍾愛せらる。

怜悧銳敏にして廉恥心に富む、群を抜でたる智力、豊富にして整頓せる思想、之が巧なる發表、綿密なる手指の運用、物事に對する熱心熱情、優れた

る觀察力、追究心、工夫想像の力、よく發達せる言語、活潑なる舉動、等の諸點に於て凡て積極的に勝れたる此兒は組中の年長株となるに從ひ漸く全幼稚の頭となるだけの統御の力を發揮し來り衆望此兒に集まり常に或遊びの發案者となり紛疑の裁決者となり、衆兒は殆ど心服といふまでに此兒に服する事となり、延いて組の全幼兒統一の中心となれり、

然るに長處は即ち短處の因となりて自重自尊名譽の強き點より稍倨傲自ら居り、他を輕侮する傾向を生じたれば、之を良き方に指導して、有力なるしかも驕らざる人にせん事を勉め、家庭にても無暗にもてはやさぬやうに注意したり

此兒の三年間の在園中前後を通じて變らざる事は其感情家なる點なり、同情愛情の温かき點なり、

活潑なる舉動、等の諸點に於て凡て積極的に勝れたる此兒は組中の年長株となるに從ひ漸く全幼稚の頭となるだけの統御の力を發揮し來り衆望此兒に集まり常に或遊びの發案者となり紛疑の裁決者となり、衆兒は殆ど心服といふまでに此兒に服する事となり、延いて組の全幼兒統一の中心となれり、

前年度までは其感情強きに過ぎ且つ實着を欠きければ意志を練習して感情に走らぬやうに導き、結果其情は漸次適度に、方向に向ひつゝあり、要するに早熟せぬ様に注意し、下手に抑へず、又あまり調子にのせぬやうにし、適當なる指導宜しきを得たらんには有力なる人間となるべき前途多望の兒なり、

### B (男) 六年八ヶ月 人力車夫の子にして父母共質

朴眞面目なる人なり

性極めて良、正直、從順、質朴篤實の一塊ともいふべく、之に言ふべからざる深厚なる他愛感恩の温情と、不屈不撓遂げざればやまざる強き意志と之に叶へる智力との加はれるあるを以て、風采甚だ無骨にして舉らず、且つ言行活潑のあまり下品に見ゆる點を彼等社會の常として恕すれば、其實

力ある點に於て其人物に於て組中第一等に位す、常に能く遊び能く勤むる標本ともいふべし何事をなすにも極めて確實熱心なり、善惡に對する感情を正しきを以て、他の悪を忠告攻撃し、又は正當なる権利を主張する爲に他兒に對して抗争する事中々手強く、しかも實力に任せて他を凌ぐなどの事は毫もなく、友殊に幼者に對して誠に親切なり、言語寡くして明瞭贅言なし、

諸心力は天性としては拔群といふにはあらねど、優れたる熱心と注意集中の力を有する爲に、着々として發達す、從て其思想を表出するに當り極めて眞面目に從事すれども手指の運用は之にかなふまでに巧ならず、談話に對する好愛の念甚だ強く詰中の人物の善行に對して美はしき情に感激する點誠に愛すべく尊ぶべきものあり、

右の如く諸點に於て優良なる此兒はAの如く華やかに切り廻す事はせざれども、永き間に衆兒に良好化を及ぼしたるは確かなり

C(女)六年五月 父に常に家にありてシャツを裁縫す、父母共温良なる人の如く兄弟皆良き子なり、

心身の發達誠に自然にかなひ、下等社會に珍らしきまでに周到なる教養上の注意をなす母のあるが爲に、加之天性温良健全なる感情と明確なる頭脳と鞏固なる意志とを有するが爲に、三年間の在園中殆ど些の欠點をも見出す能はぬまでに優良なる兒なり、凡ての言行天真爛漫無邪氣にして常に愉快に正直從順熱心寛大自治親切等の諸徳は年と共に加はり、交際圓滑如何にも婦人らしく優しくしてしつかりしたる兒なり、かゝれば女兒中第一等

の人家にして、男兒中のBと相並んで良感化の中心となれり、舉止質朴應揚其性行誠に子供ながら敬愛すべきものなり。

現性記性共に強く整然たる頭腦を有し、加ふるに事に當りて着實極めて眞面目なるを以て、諸心力並に之を表出する爲の言語手指の運用等の發達頗る見るべきものあり、特に思考力に富み推理作用明確にして數學的能力に長せり、

將來の教養宜しきを得て長處を大切に助長せんには稀に見る良き婦人となるべき見込なり

### 日本の幼稚園

久しう我國に居つて、神戸に幼稚園を建て、我國保育界に貢献する所少からざりし、エー、エル、ハウ女史は、目下北美シカゴのフレーベル會々長を

して居られるが、本年の聖路易の教育大會に、我が國の幼稚園を次の様に紹介せられました。

「獨逸で見る様な幼稚園は、餘程以前、日本の國民系統の中に編入せられた。今より十六年前、既に全國の大都會に幼稚園を見るに至つた。材料も作られ保姆も養成せられた。幾多の變化の後、今や幼稚園は日本に確立せられる様になつた。概して園舎は合衆國のから見ると勝つて居て、何れも獨立の建築で、夫に庭園や花壇もある。衛生には頗る注意して居る。政府は、園舎、保育室、遊園、一幼稚園の幼兒數と保姆の數とに關して、細密なる規則を發布した。現今に於て、此國の保育事業の上の、最大缺點の一は、保姆たらんとする者と保姆にして尙進んで研究しようとする者に取りて適當なる著書のな

ことである云々。

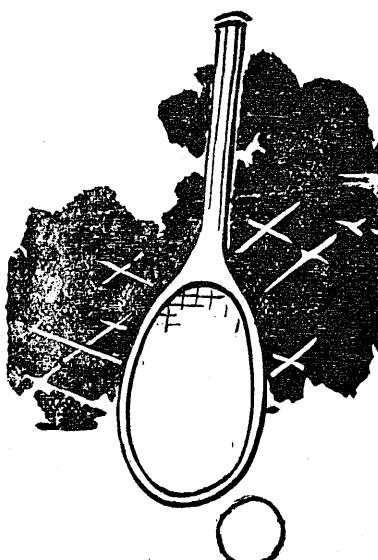
六十八

### 濠洲ニユーカッスルの幼稚園

先般、我邦の幼稚園視察として來朝せし、ミセス、ウード女史は、濠洲ニー、カッスルの幼稚園會々長として、大に斯道に盡力せられつゝあり、過日送附し來りし報告によれば、全地の幼稚園は頗る有望にして、着々發達の機運に向ひつゝあり、卷頭にかゝぐる所に由りて、全地幼稚園の概略の模様を知るを得べし。

### 傷病兵士慰藉運動會

女子高等師範學校附屬高等女學校にては、目下東京豫備病院戸山分院に收容され、治療中なる傷病兵士慰藉の爲め先月二十五日午前十時より戸山學校裏手なる廣場に於て運動會を催したるが、朝來天氣美しう晴渡りしと思ふ間も無く、秋のならひとて何時しか薄墨を流したらんやうに曇りて、風



也へ冷やかなりしも、無聊に苦める三千餘名の傷病兵は皆いそ／＼として打集ひ、周圍の天幕内に踞座し或は南手の土手に席、毛布など打敷きて之を見物し、此の優美なる女子の運動競技を太く喜べる様に、病の苦も傷の痛みをも忘れ果つるが如くなりき。さて當日の運動は左に記すが如く三百五十餘の生徒いづれり勇ましく扮立ちて、勝負を争ひ中にも第四の擬戦は紅白の櫻にて軍を分ち、各脊に相印を付け入れ亂れて敵の旗奪はんとする程に脊の印を奪られて、虜の數に入るもあり、弱きは逃げ惑ひて助けをよぶなど、殊更兵士の氣にも叶ひたりけん絶にす拍手の音に迎へられ、架橋競走、鈴割り、夕立競走など、また面白く其他陸軍軍樂隊の奏曲に連れての舞踏は、最も興味深かりき。斯くて午後四時半過ぎ無事閉會したり。

運動會順序

(唱歌運動獎勵の歌)

一同合唱

四年

甲三年

二年

行進

ホーロク釣り競走

メニユエット

カレドニヤン

徒競走

架橋競走

各級有志者

乙三年

事攻科一、二、三年

事攻科一、二、三年

一同合唱(別項掲載)

五年

事攻科一、二、三年

四年

甲三年

二年

乙三年

四年

甲三年

二年

乙三年

三年

事攻科一、二、三年

体操修習科

ランサス

瑞典式体操

バスケット

ボール

コチロ

午後一時まで

休憩

(唱歌傷病兵士慰藉の歌)

鈴割り

赤十字遊戯

コチロ

體操

唱歌

傷病兵士慰藉の歌

正午十二時より

一同合唱(別項掲載)

五年

事攻科一、二、三年

四年

甲三年

二年

乙三年

四年

甲三年

二年

乙三年

三年

事攻科一、二、三年

体操修習科

ランサス

瑞典式体操

バスケット

ボール

新刊紹介

會報

七十

○英文歐米名士の家庭 一冊 松浦政泰著

本書はミセス、ヘル女史の原著より抄略せるものにして、古今歐米の最も卓絶せる婦人の傳記を集めたるもの、古きは紀元前より新らしきは、現今の婦人に至るまで、其數實に四十五、体裁優等にして印刷極めて明瞭、加ふるに、々々、其人の肖像を挿みたり、婦人にして、英文研究をなさんとする人には無二の好著なりといふべし。(定價四十五錢 神田區表神保町同文館發行)

○醤油の巻 (經濟新報臨時増刊) 全一冊

本書は日常必須なる醤油の化合、滋養、原料貯藏法等より詳述して、野田の醤油と、銚子のとを精細に比較せる小冊子なり。料理法等に注意する人の一讀の價値あり(定價十五錢、東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷村九〇一、經濟新報社)

○家庭のしるべ

本書は表題の通り家庭に必要な裁縫指南、茶道、通俗法律、料理法、式法、素人醫者、一口話、文苑等を掲げ、小説には貞婦、烈女等を主人公とし、就中乾燥無味になり易き裁縫指南を小説的に記述したるが如き、殊に衣服の流行を始め白木屋、呉服店、反物の時價を知らんがための好雑誌なりといふべし(定價は一冊郵税共十三錢大賣捌所東京神田表神保町東京堂)

先月第二土曜日、麹町小學校に於て、本會例會を開きたり、來會者六十餘名、高橋章臣君の演説、野口幽香子君の麹町區幼稚園組合に於ける研究相談の報告、其他遊戯等、有益ある事柄多かりき。

入會

埼玉縣入間郡金子村大字中神

大分縣速見郡別府幼稚園

日本橋區箱崎町四ノ一

本鄉區湯島天神町三ノ十三

芝麻布共立幼稚園

日本橋區鰯谷町日本橋區第一幼稚園

堺市錦町錦西尋常小學校

芝區白金猿町頌榮幼稚園

北海道厚田郡厚田尋常高等小學校

事務所申込

全上 平山保光

事務所申込

全上 鐘ヶ江靜

紹介田中房 原しゆん

紹介小西壽美 吉野かほる

桑田勝子  
阿部イノ  
上

全上 小岸ゆう

全上 武藏とみ

全上

奥田いちの

# もどり子と人婦

轉居

函館區沙見町二十一

鳥取縣鳥取市東町官金

日本橋區鰯殻町二ノ十四日本橋區第一幼稚園

宇都宮市立青會附屬幼稚園

和歌山縣和歌山市拾番町十八番地

福岡市簀子町濱八十二

深川區東九丁目十三  
赤坂區新町二十七

名古屋市富士塚町三庚三五西里方  
福井縣高等女學校

本郷區駒込富士前町ノ六

日向國宮崎町宮崎縣立高等女學校  
和歌山縣有田郡湯淺町大字湯淺五

麴町區五番町十八日吉箱  
通丁五  
通丁六  
通丁七

小石川大塚辻町十八養育院構内

堺市少林寺町東二丁  
本郷区弓町一丁目二十五

卷之三

會費領收  
自明治三十七年九月廿七日  
至全  
年十一月廿四日

11

四

月

三

1

七五

七、五

姓 岩下 龜名 鎌門

中奈岡奥安佐礪吉寺戸下前遠鈴西平八片桑武  
村貞 野西木畠澤本野條野藤木浦岩田桐原藤  
五あ三ませ八せ 千とちすと長重り繁さくは  
六い郎さい代い幸しきみき江子つ治たらを梅

號一第十卷四第もど子と人婦

伊平安土石永加淺大鈴御池羽佐伊樺岡大濱中岡阿斯林栗西保新田  
藤野藤川井田藤田野木厨袋田藤東山田岩島部波山浦井井邊  
ちさ五國かつ比守すすか起のまみ都いやとりこ博  
か蝶だ郎次い當る奈重忠が幸みめ當作ぶつつ子ノす蝶くつの次春

武丸大鈴星勝松吉早後船内小高大成山佐浅小相福龍後川小雨春安  
藏山山木野田浦田川藤葉田杉橋橋瀬口藤岡岸賀田澤藤島關森田井  
とか干ゆひすしこりかか いいききさはゆよあみいみ 哲  
めく代きさみなうしんねね郷ちぬよだまうしいちとつ清創隆子

上森平伊佐櫻伊儀工小井市土丸傍玉福小川久金上前堤奥鐘小深  
遠野　山東木崎藤俄藤林口川取山島井村米子野田ヶ澤江  
希　三　乙保國八景みふふみよ源のまた之を一たきあとてい江てと  
千　郎女光三代一ちみぢちね三ふさま助榮い郎つたいきつの静るき

會告

會務整理の都合有之候に付き會費未納の方は此際至急御納附下されたく候。

フレーベル會幹事

面白いおとぎ話だの遊戯などがある  
なら、どうか子供欄へおだし下さい。

家庭教育のことや和歌新體詩なども歓迎します

フレーベル會編輯部

毎月一回

一日發行

すみれ 第壹卷第六號要目

(十月一日發行)

七十四

○姫百合	故落合	直文	○死	一條柳雨
○行かぬ羽田	宮西		○十七字詩	空吟、夢山 迢々、南城
○すみれ	稻村		○玄海の恨	小木曾旭晃
○酒折宮	三矢		○小川	小田切竹葉
○雲のゆくへ	越州		○夕雲	塙よし子等
○文藝雜話(つゝき)	植木		○山蓼	秋山 紅蓼
○朱成功(下)	端良		○黒百合	有野 薑夢
○流水曲	朱雀		○長短片々	すみれ會同人
○斥候騎兵の圖	中内		○伊勢物語私見(つゝき)	小林 靜軒
○啄木鳥	蝶二		○えびかづら	むら子、みつ子
○秋の自然	鳥川		○市川紀行	近藤ゆかり
○森かげ	鶴丸		○西山紀行	一瀬 蘆南
○夢心地	文藏		○噫志村秀太郎君	畠川 靜軒
○小柴籠	篠原		○興津の磯	八田 蓮峯
○醜草	楓葉		○哀調	芙蓉 靜軒
○わゝ理想の苦しみ	稻岡美賀雄		○編輯事項	記者
○黒雲	奥山	無言	○すみれ會清規	
○筆のすさび(つゝき)	丹澤	美助		
○廣瀬中佐	村松	鍼三		
	一倉	鬼瓦		
	さゝ	波		

發行所

甲府市魚町二丁目  
小林 靜軒 方

すみれ會

郵稅不要  
定價拾錢

# 家庭割烹習學者に勧告す

女子教育上、學校に家庭に割烹習學の必用を知るも未だ其教授法の完全を計る事能はず、或は學校授業に二汁五菜の重さを科し、家庭教授に日用惣菜のみを授くるが如きは教員其人の擇擇を誤解し、料理人と料理職人との差別を立てる事を得ざるによれり、料理人は料理人にして料理職人とは料理茶店の職工なり然るを、學校教員に料理茶店の職工を以てせる所東京京都大阪にあり、しかも際立たる學校々舍に於てかくの如し、本會發に見る所あり、家庭教授法、學校教授法の二學科により左の事業を擴張し割烹習學者の便益を計らんとし割烹教授法の完全を希望する、諸君。實地應用の割烹を習學せんとする家庭に於ける主婦の君たちにつぐ

## ◎地方短期講習

〔家庭授業部〕

## ◎同

〔教員養成部〕

## ◎地方出張教授

〔學校及家庭〕

## ◎市内出張教授

〔家庭及學校〕

◎右何れも割烹學會擴張の爲め、有志者の便を計るを以て、殊更に費用簡易を主として教授事業を引請くるなり

東京市京橋區鈴木町

大日本割烹學會

主任 石井泰次郎  
石井式割烹教場

明治三十七年十一月

